

911.3

7⁴⁹

天家降物... 神祇... 衣月... 竹...

衣月... 竹... 天家... 衣月... 竹...

竹...

...



付合小鏡



正月 十一
二月 十二
三月 十九
四月 廿五

五月 廿九
六月 廿六
七月 廿四
八月 廿五

九月 廿九
十月 廿六
十一月 廿七
十二月 廿七

卷 七十九
休懷 九十一
秋夜 百三
神祇 百六

旅 百十
山類 百五
水邊 百廿
居所 百三

植物 百九
生類 百九
雜 百廿八

○四月之詞

一 春立 二 星昌 三 菜子 四 辰赤 五 水橋

六 水水 七 試春 八 子日 九 白馬 十 菜

十一 平 十二 柳 十三 縣昌 十四 霞 十五 曙

十六 餘 十七 葛 十八 表 十九 作保

廿 物 廿一 野 廿二 崩 廿三 長雨 廿四 水解

廿五 春風 廿六 東風 廿七 春雨 廿八 朝雉 廿九 雄子

三十 春月 三十一 角心 卅

于橋 主蘇
生機舟 主夏
五真菰 苾麻子 主
手力 主
收 主
短夜 主
月

○六月

米 主
白雨 主
暑日 主
○七月
涼 主
秋 主
後 主

一 主秋 二 蠅 三 夕 四 秋暑 五 後

玉 主
落 主
芳 主
月 主

主 主
尾花 主
朝 主
主 主

主 主
主 主
主 主
主 主

○八月

天 主
稻 主
草 主
草 主
芭蕉 主
司 主

壬辰 放生 無窮 逢 正月初 臨 庚申 戊 聖 歌

亦八 先 鷄 早 多 甲 鳴 百 日

壬辰 長夜 甲 崩 養 甲 洗 貼

九月

甲辰 養 甲 心 柳 艾 菊 先 夜 多 子 養 一

壬午 草 壬 萬 葉 壬 夜 酒 壬 落 長 壬 石 門

壬午 草 壬 養 壬 柳 夫 甲 六 子 三 壬 木

壬午 草 壬 養 壬 石 門 壬 木 養 壬 依

十月

一 竹 奴 二 損 三 木 葉 四 冬 分 霜 十 枯 骨

十 千 多 七 谷 付 多 多 八 鴨 九 木 枯

十 炭 竈 十 綱 代 十 養 持 十 三 乙 月

十一月

壬午 五 紫 鏡 十 去 壬 去 庚 壬 火 友

壬午 小 宗 壬 子 月 二 壬 祭

十二月

五 神樂舞 主 神樂舞 主 神樂舞
五 神樂舞 主 神樂舞 主 神樂舞
五 神樂舞 主 神樂舞 主 神樂舞

○戀部

一 恋 二 思 三 遠 四 待 五 恨

六 契 七 契 八 契 九 契

十 契 十一 契 十二 契 十三 契

十四 契 十五 契 十六 契 十七 契

十八 契 十九 契 二十 契 二十一 契

廿 色好 廿 色好 廿 色好 廿 色好

廿一 色好 廿一 色好 廿一 色好 廿一 色好

廿二 色好 廿二 色好 廿二 色好 廿二 色好

廿三 色好 廿三 色好 廿三 色好 廿三 色好

廿四 色好 廿四 色好 廿四 色好 廿四 色好

廿五 色好 廿五 色好 廿五 色好 廿五 色好

廿六 色好 廿六 色好 廿六 色好 廿六 色好

○迷懐

迷懐 迷懐 迷懐 迷懐

迷懐 迷懐 迷懐 迷懐

世と拾子二
三 老付齡四 伍家九

古墨保入袖
七 藤衣八 九 祀も全

十 古塚 土 草原 土 木の木の末 土 ころも木

古題 五 板の親 六 子と京 七 松り

○釋教

大寺 九 室 十 法 十一 行 十二 悟

蓮 願伽波 四 廿 喜曉 五 廿 夜 六 廿 佛 七 三 食

夫 板の白ハを

○神祇

一 神 二 丈 三 社 四 瑞籬 五 白雲

付 六 注連 七 祝子 九 かく

○旅之部

十 旅 十一 都 十二 土 十三 倉 十四 土 周

古 船 五 駒 六 去 驛路 七 十 枕 八 越 九 家

九 甲 十 念 十一 友 十二 之 十三 家

○山類

一山 二峯 三岡 四谷 五麓
 六坂 七畑 八棚 九山 十谷

水田

十 瀨 土浦 付田
 主 磯 古江 古湊 古濱 古洲
 付人 古大 古海 古土 古川 古水 古池
 主 澤 主 沼 主 井 主 堤 主 岸
 主 碓 主 樋 主 花 主 井 主 岡

居所

主 殿 主 樓 主 宿 付 主 家 主 屋 主 寺
 主 卷 主 軒 主 戶 主 門 主 亮 主 忘
 主 床 付 中 主 里 主 里 主 垣 主 里 主 麓
 主 庭 付 仰 主 置 主 介 而

植物

一 松 二 杉 三 楨 四 檜 原 五 楠 柏
 六 森 七 草 八 藪 九 芝 十 菅

土 藻 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産
土 産 土 産 土 産 土 産 土 産 土 産

○生類

主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹
主 鷲 主 鳩 主 鶴 主 鷹 主 鷹

○雜部

一 日 付 空 二 星 三 朔 付 四 夕 付 五 走
六 雨 七 雲 八 烟 九 凡 付 凡 付 凡 付 凡 付 凡 付
土 虹 二 天 房 三 鐘 占 田 五 野
主 市 主 岩 石 主 真 砂 主 柴 薪 主 土
主 菱 主 布 主 洗 衣 主 高 脚 衣 主 盆
付 袴 袖 主 焚 火 主 無 火 主 火 主 車
主 鏡 主 繪 主 習 付 主 屏 凡 主 袋

辛卯 例ありぬ 左遷 基

五 初 翰 四 詩 里 哥 里 之 入 里 子

器 琴 里 笛 里 存 里 集 里 玉

里 錦 幸 仙 幸 一 乃 杖 幸 唐

幸 都 幸 君 幸 以 幸 幸 位 幸 在

夫 宿 直 幸 四 調 幸 幸 儲 幸 空 酒 甘 醉 心

幸 家 凡 幸 幸 幸 四 町 幸 碎 賀 幸 祝 幸

早

正月

ひらきとる月 初月 月 初月 月

一 去 五 花 乃 幸 幸 乃 幸 乃 幸 乃 幸 乃 幸

今 具 去 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

幸 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

〇 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

重

新むいりまゆりわぬりまゝるる心まの色々

抄言 一星と習ふ 四方神の事 春と之 秋九を 作る

衣 物じ どもし神のま

一子目 子松子目する野 子首してと大子目

小松引袖 小松と引くこと ○おあ帝 衣良上

行幸 行く 小車 こくる しあ あ 衣良上 ら 衣良上

舟園 春日

倚松根 摩殿 手年 翠 滿手

君代 以後 月松 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上

衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上

衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上

一白馬 前會七日 御馬三七廿五 以降の衣良上

百六八 衣良上 野辺 の下 萌

一若 衣良上 依 衣良上 依 衣良上 依 衣良上 依 衣良上 依

依 衣良上 依 衣良上 依 衣良上 依 衣良上 依 衣良上 依

○若 衣良上 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上

春上野 衣良上 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上

衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上 ら 衣良上

快活根
ありてはるるをいふるがたをいふは古くより

上 一 芥 付之く芥 異存之別 有と

楊芥 小芥 漆葉芥 小芥 必の根芥

之く徳 之く入るるふ 山之く 川をえ

○ 水漬 一 法 澤の 小田入りを 未 流

之く水 之く入と 異石自根草

如 香草 一 葉の 根の 油の 丸の 君の 小芥 下り 楊芥

日 時 ありてはるる入 時 楊芥 と いふる 氏 取 と いふる 根

一 物 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥

宿の物 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥

楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥

楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥

○ 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥 楊芥

難波津の...の...
難波津の...の...
難波津の...の...

酒池...
酒池...
酒池...

古
人...
人...

物...
物...
物...

一昧...
一昧...
一昧...

あ...
あ...
あ...

手
中...
手...
中...

一...
一...
一...

○あ...
○あ...
○あ...

ら...
ら...
ら...

二...
二...
二...

一...
一...
一...

秋夜

わが春ははらけむ 秋はくさ 秋のくさるる
山入の山はあはれむ 秋はくさるる 秋のくさるる
山入の山はあはれむ 秋はくさるる 秋のくさるる

○春もはらけむ 秋はくさるる 秋のくさるる

秋はくさるる 秋のくさるる 秋のくさるる

や近き家居 琴 青柳 相坂 葛城

青や 立山 本浦 附鳥 鶏 既啼 鶯 赤山

野の 草の 生る 所 春の 風 吹く 声 聞ゆ べし

春の 風 吹く 声 聞ゆ べし 春の 風 吹く 声 聞ゆ べし

春の 風 吹く 声 聞ゆ べし 春の 風 吹く 声 聞ゆ べし

林 鶯 何 處 吟 笙 柱 琴 鶯 曲 一 行

春の 風 吹く 声 聞ゆ べし 春の 風 吹く 声 聞ゆ べし

春の 風 吹く 声 聞ゆ べし 春の 風 吹く 声 聞ゆ べし

一 鹿 暮 暮 朝 暮 夕 暮 薄 暮 一 暮 一 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

の 不 成 言 薄 暮 月 影 花 の 空 屏 尸 瓦

静 なる 浦 舟 絶 ち 去 る 光 又 入 之

静 なる 浦 舟 絶 ち 去 る 光 又 入 之

二丁八三三三三 鐘乃青 土宿

此の石は花のしるしにあらはれしものなり

と云ふは其の石のしるしにあらはれしものなり

と云ふは其の石のしるしにあらはれしものなり

と云ふは其の石のしるしにあらはれしものなり

と云ふは其の石のしるしにあらはれしものなり

と云ふは其の石のしるしにあらはれしものなり

一佐保姫 其の石のしるしにあらはれしものなり

石の油 石の石の石 石の石の石

○長州成文 五月 花雪山 雪の石の石

天もく小 青根の石

一 鱈の鳥 石の石の石の石

一 かきき 石の石の石の石

○石の色 石の石の石の石

花の枝 石の石の石の石

石の石 石の石の石の石

石のまはりにてはたむとよのりなれどもあはれ

古川のくまのよのりなれどもあはれ

一甲のくまのよのりなれどもあはれ

○古清のくまのよのりなれどもあはれ

けりてはたむとよのりなれどもあはれ

や今とてはたむとよのりなれどもあはれ

一長閑 けりてはたむとよのりなれどもあはれ

あはれとてはたむとよのりなれどもあはれ

○あはれとてはたむとよのりなれどもあはれ

花城 鳥の音 谷の川 雲の影 移りてはたむ

四方のまはりにてはたむとよのりなれどもあはれ

又雲のまはりにてはたむとよのりなれどもあはれ

あはれとてはたむとよのりなれどもあはれ

一清とてはたむとよのりなれどもあはれ

○朝日とてはたむとよのりなれどもあはれ

あはれとてはたむとよのりなれどもあはれ

あはれとてはたむとよのりなれどもあはれ

東晉書 卷之九 謝安傳

安嘗云 水滸田地 甚難種

在 答風之書 謝安嘗云 水滸田地 甚難種

安嘗云 水滸田地 甚難種

安嘗云 水滸田地 甚難種

○安嘗云 水滸田地 甚難種

安嘗云 水滸田地 甚難種

獨心

此書之義與前書不同

卷之六 合論

一朝應 自是後 漢人 爲 終 胡 將

胡 增 表 主 後 漢 胡 將 之 功

爲 同 之 言 胡 將 之 功 在 此

胡 將 之 功 在 此 胡 將 之 功 在 此

胡 將 之 功 在 此 胡 將 之 功 在 此

彼 美 其 野 又 居 其 地 草 也

三 子 亦 不 計 以 行

維 子 維 子 維 子 維 子 維 子 維 子

維 子 維 子 維 子 維 子 維 子 維 子

維 子 維 子 維 子 維 子 維 子 維 子

維 子 維 子 維 子 維 子 維 子 維 子

維 子 維 子 維 子 維 子 維 子 維 子

乃ちさうくくさるるをいふて人かをいふ能く言ふる事
なき

乃ちさうくくさるるをいふて人かをいふ能く言ふる事
なき

春月 朧月夜 不ろをさるる月 月さる

月さる月 去用月 月さる月 月さる月

くさく物さるる月 花入客 月さる月

月さる月 月さる月 月さる月 月さる月

山さる月 月さる月 月さる月 月さる月

月さる月 月さる月 月さる月 月さる月

松平

二月

此のころ 月さる月 月さる月

月さる月 月さる月 月さる月 月さる月

あつたころ

二月 月さる月 月さる月

一柳 青柳 柳原村柳 柳さる月 柳さる月

柳 柳さる月 柳さる月 柳さる月 柳さる月

柳 柳さる月 柳さる月 柳さる月 柳さる月

柳 柳さる月 柳さる月 柳さる月 柳さる月

古橋、杉本橋、のり橋、度々橋あり

○美、赤川の、池あり、岸根、地、雪、吹、く、あり

庭、の、海、小田、の、黄、代、上、高、清、の、村、響

花、柳、虽、沁、涼、馬、城、山、佐、保、川、院、川

吉野、川、柳、の、庭、○柳、上、寫、花、示、々、琴

○離、別、河、边、館、柳、條、○東、岸、西、岸、逢、逢、舟

休、の、ら、未、く、ら、う、け、の、白、鳥、も、あ、の、あ、ひ、の、ま、の、柳、の、葉

道、の、子、清、の、さ、く、柳、の、は、に、よ、く、も、ま、あ、り、
一、三、

柳、の、ま、た、田、の、水、の、沖、梢、に、庭、の、お、も、た、り、な、る、は

○新、の、の、り、き、山、の、水、の、目、の、も、も、か、り、は、の、と、い、ふ
但、青、柳、は、う、り、き、ま、り、う、り、ま、り、の、の、や、の、の、と、い、ふ
い、じ、う、け、の、ま、の、は、の、れ、い、わ、い、て、可、也、
一、三、

一、三、
朱、の、の、め、ふ、ゆ、め、ま、ま、な、る、ふ、ゆ、の、め

傳、美、雨、未、園、生、ま、る、は、長、閑、の、る、山、森、柳

一、三、
の、草、ま、の、の、ま、の、の、あ、の、草、ま、の、の、ま、の、の

ま、ま、ま、あ、る、の、ま、の、ま、の、ま、の、ま、の、草、ま、の、の、ま

○堆、子、の、色、も、清、く、野、の、白、の、絨、の、吹、ぬ

去入の 柳法 在 遊家 武蔵野

去日 柳 一 去月 遊家 武蔵野

去月 遊家 武蔵野 柳法 在 遊家 武蔵野

中西まぐ たまののこま りふけの思

○別り丁 けり 里人 ちぬり

らうすくもあます

わろいともいふ音并にといひはじむ

一 去月 上旬 昔の神宮 春景

○道の水車 野あけのあ人 乙乃吉

東風 けりて 水陸連 船の岸

月入 船をまき 月夜まじり

一 大原 東 月より 白のめま 入のく 牛車

あさふら道 白ゆふ 小嵐山

一 佛の別 去一佛 二月のつま

○花揺袖 世並 ときと 解法 乃新

清乃毛 古寺 けりま けりて けり

ちん行 支 儀 藤より けりて 中屋

一 舟行 支 儀 藤より けりて 中屋

一 舟行 支 儀 藤より けりて 中屋

○春のあけぼの色のふゆのまじりたる

花園 春のあけぼの色のふゆのまじりたる

三 春のあけぼの色のふゆのまじりたる

牡丹花下 蝶猫兒意

三 春のあけぼの色のふゆのまじりたる

花よりよしの花 何れも花 花皿 花の根

花の宮 花のさ 不感 花心 花心 花の心 花の心

花衣 花衣 花の根 花の心

花の心 花の心 花の心 花の心 花の心

花園 志賀 一ノノ

とばふ所 一ノノノノノ
よる里あるをむむ園のあんな

心入む 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

志賀の一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

三月

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

三月 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ 一ノノノノノ

無
 心ゆくはほれものいづく世なるはつたのわが
 人そとまの折りのほほ。そとれありのほののほ
 一平 巳入の夜 土頭川の風種もそ
 一平 三月言 風うき無きうら文人詩作
 邑入月尺校 作詩 法あり 長閑心あり
 の風 頭ノ浦
 頭ノ浦の校 いかきき凡 浮舟浦舟 鳴神
 陸 こそこえとてふれえ人々 去つたのありき

永日 壬子日 書こき春入日 せきせきひりり
 多く 八日 〇少くぬる花とつら 去り
 越外 山く きてるをむ行 此も
 一道 南系 石清めいり 三月辰日 〇琴 笛のしらき上
 衆人 かなしれがけふ之れ 白ゆらまぬま
 七 白ゆらまぬま 沈舟のほりまげさ
 去日 入 去りの南あり
 朱雀院 八二二 始

一蛙 井子の地にて蛇蟻のしるし也

岩中ニ生ずる蛙 石井の邊に蛙 芝野の蛙

○小田の古口 苗代池の古井井の古と雨

霽ふさむ井の江の古故を継ぐも

玉川 神南傳川

山吹の地味より蟻をく井の古人もやこはまを

此花よりむやして蟻のしるしをわすれし也

地をけしむ川はたて今も昔も人の中を流る

一 船 舟の古を船つる古船の古もを

船集の古く 佚船崩築の古く 古ゆき

○玉川の古 持川 太井川 茂川 松浦川

宇治川 月の下り 山石の古く 古く

猪浦川 葛の浦まゆのいりて古く古く

苗代 古く古く古く古く古く古く古く

苗代古く古く古く古く古く古く古く

○古く古く古く古く古く古く古く古く

去凡村竹根并依此法之草集

天阿草代のさそくをのゑとくは神の神非非

一藤 初藤さそくむ藤抄本下藤藤掃

○斤小畑 小山谷法世と捨人 去野 藤

紫塵紫塵藤人拳拳手

初古 一草 山根 宇治山 紫塵藤人拳手

一莖 摘草 依草 莖菜 莖菜 莖菜

○美乃野 去法 味之極根 芝草 谷排抽

野乃乃乃 採 依茅原ゆたの

昔々味之極根の草は依草の草なりとぬとぬ美

依草の草は依草の草なりとぬとぬ美

一鳥帰 之より多 去乃乃有 去乃乃有

去乃乃有 去乃乃有 人なりとぬとぬ

一草 雀 あらき雀を雀の床 去雀居本

去雀 あらき雀を雀の床 去雀居本

子と母と雀を雀の床 去雀居本

子と母と雀を雀の床 去雀居本

妻の夕日 おくろく 芝生

初ハツからハツあハツのハツ祈ハツむハツむハツりハツ下ハツしハツ意ハツ入ハツるハツ
春時ハツ多ハツ雨ハツあハツえハツ 休生山 じハツのハツ本ハツ雪

朧ハツ月ハツ夜ハツ ぬハツのハツ美ハツ昏

一ハツ行ハツ一ハツ岩ハツはハツ一ハツ春ハツ根ハツのハツ灘ハツ踏ハツ 思ハツ作ハツ

思ハツのハツ作ハツ一ハツ小ハツ作ハツ一ハツ大ハツ作ハツ一ハツ大ハツ作ハツ一ハツ大ハツ作ハツ

下ハツ流ハツ下ハツ白ハツ作ハツ一ハツ思ハツのハツ作ハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

白ハツ作ハツ一ハツ思ハツのハツ作ハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

殊ハツ更ハツのハツ作ハツ一ハツ思ハツのハツ作ハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

くハツ岸ハツ川ハツ岩ハツ立ハツ田ハツ河ハツ 夫ハツのハツ夕ハツ日ハツいハツろハツろハツ

若ハツがハツ一ハツ思ハツのハツ作ハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

古ハツのハツ心ハツまハツまハツ盤ハツのハツ心ハツまハツまハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

おハツのハツ八ハツ塩ハツのハツ圃ハツのハツ心ハツまハツまハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

一ハツ藤ハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

夫ハツのハツ夕ハツ日ハツいハツろハツろハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

若ハツがハツ一ハツ思ハツのハツ作ハツ 一ハツ思ハツのハツ作ハツ

一 卯花 卯心月夜 卯心卯心 卯心卯心

卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

○卯心 卯心月 卯心 卯心卯心 卯心卯心

小野の里 卯心 白河

卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

一 杜心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

一 杜心 卯心卯心 卯心卯心 卯心卯心

○庭の家 色 五月 胡蝶猫

牡丹花下 睡猫 在心 草蝶

景

名年ハ空くもろ派をまじのひかへくや止

一子規 山子規 鳴蜀城 少時多 同邦を

夜く心杜や 書し杜鶴 待てくま子

子規の悲しき 例もろか鳴り ぐらろま子

那るの洞 とらへるをれん 子規乃

うらま 例もろまじしよまま

○その中 雨中 村雨 春浪花 伏村 短夜

森のり 栗橋 茂の梢 草の毒 子前くら

忠孝青 山路 文 青月 国の戸 二寸の糸

杯足の抱 淀の渡 千国の森 州石

首より草の生る夜 雨も洞ふくく山竹も 後成

千 子規鳴つことをきひきたる者の月を詠了

木 竹やうさ落ふじ民の今一言のきくあり

いふも今な夜をわたり河をまきくしよか河の

橋のまはるのしりあけむらうの里をのたぐり

卯のむらほぬあそこの河も月日種かきとるに

一新樹 ちんろふ系 小のあそ ちんろふ編

ちんろふ一このむ ちんろふ 小のあそ ちんろふ

あけ ちんろふをまら系 同 小の下む ちんろふ

ともちんろふをまら系 三月三日

ちんろふ系 ちんろふ 村む ちんろふ 五月

あそちんろふとわらう系 春草をまら系

神系 大原系 月上月 三輪明神 一橋荷系 月上月

一栗野系 月上月 仁徳といふ系 一松尾系 月上月

一廣瀬竜田系 月上月 一吉田系 月上月

一加茂系 月上月 ちんろふ神系 ちんろふ系 月上月

村事わし 地を所 ちんろふ系 ちんろふ系 月上月

ちんろふ系 ちんろふ系 小車 ちんろふ系

白土 ちんろふ系 大原の系と計 ちんろふ系 小田の系

ちんろふ系 ちんろふ系 ちんろふ系 ちんろふ系

一葵 ワビ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ 五月 葵の葉 こころ

池のわがまのこゝろへいふ 池の底 小家がらむ

五月雨 ころもきこわめ川わく 主人

志はのそ 近道の道 ぬのころ

あはれおのこをせしきまは ちのわらもたをよす

あはれおのこをせしきまは ちのわらもたをよす

一葉玉 袖のまむ 白小葉玉 枝のふかき

一丈人 ちのま ちのふ 砂盆

一むらり入日 ちのふ 油入をく

一すいゆ 丈人

一あけ ちのまの竹 今年あけ竹 度あけ竹

○五月雨 打入下衣 窓の黄色 文の月

園生 下衣

一五月雨 ちのまのこ ちのまのこ ちのまのこ

き五月雨 ちのまのこ ちのまのこ ちのまのこ

さ月のちのこ ちのまのこ ちのまのこ ちのまのこ

月とぬき 下衣 ちのまのこ ちのまのこ ちのまのこ

子妃 二の三亀 富士入を 独の洞 淋しき

日投のうねの宿 ぬ越家川橋 舟のまのこ

五月のうねの宿 ぬ越家川橋 舟のまのこ

○五月のうねの宿 ぬ越家川橋 舟のまのこ

五月のうねの宿 ぬ越家川橋 舟のまのこ

○五月のうねの宿 ぬ越家川橋 舟のまのこ

ふまふさるふ里のまが沢ののろろの道
天 青く富の足りちまら川に流るるありや
一巻 まの月 青く まの秋 青くひつり あり

かきつらま 小の下ま 柳のまの○くかま

舞の國 赤の石 五月の柳 柳

天 人とのまの杖よりよきて 志のまのひたて 後

杖のちかきまはなはひひくくまはまはま 五月の

一掃 柳のりちま 柳の掃 掃掃の心 天のま

掃 成子掃 毛の子掃 毛の子掃

五月のふふ 子規 蜀の柳の 成の河原

天 小の木の林は足は法よりちのひひまをり 地は

一掃 柳の掃 柳の掃 柳の掃 柳の掃

○五月の柳 五月の柳 五月の柳 五月の柳

くくねのま 志の 柳の柳 柳の柳 大の柳

五月の柳 五月の柳 五月の柳 五月の柳

掃のふふふふのま 柳のま 柳のま 柳のま

天香

古
青河の流橋のもすけき真人の袖のうらうら 後人
一船 結くふ外船はつらむやかえさす 王
○馬子取 ちのち 月夜流 夜を海 宇治川

大井川 桂川 松浦川 玉鴻川

宿
朝ふく日次ゆらぐ桂船のゆをばとふたもり日 信譽

る花
かたけいんは歌を流のきんじと船の調をわたり 王

一鶴舟 うらむ舟 下舟 鶴舟の舞うむら 舟

はくし鶴川 夜河の舟の記さ くさむ橋

おく橋 橋ののち名 名も居橋 王 月 王

短夜 川邊の虫 本井川 桂川 宇治川 王

うらむ舟のうらむ武夫のうらむ川の夕陽のそ 王

一百合草 ちちとりのむさし 王

合草 ちち百合草 沖内入の百合草

し黄の夜入夜 鳥を 経門の夜を 灯 花

作のゆ 流 真野の入江 王

書
白むの常よりやうきん入るまなく夜のとち 王

一 海松 海松列 海松むら 海松布列等

みろきさうき海松の磯へ深傍むらう船

瀬夕草や 茂る草 うきとあの人 真流

伊勢海 難波 大波の浦

此の浦はなまみろきとくしーりのやうに夜

うにけしけしと海松のりりゆかむすこころも

真流の入り口月うたの月椿まのまじり

一 真流 と流川 真流草 と流茂く 真流

みろき 川の真流 伊入真流 入江真流 流川

小舟 花うらとるまの 船あり 入江 舟 舟のま

あやめ草 芦 辺 渚の磯 三徳に 玉江 町あり

二 麻子 麻子のまきりまきり花あまきり 四つん麻子

一 麻子 麻子のまきり 麻子まきり 麻子まきり 麻子

川 麻子まきり 麻子まきり 麻子まきり 任野

○ 友山 友草 田中 入道 友草 友草 友草

本美けの陰 道のすま しのあふれくも

^{五十七} 一ひらり 経もむり 歎得 是こころ

中りして こもすまの聖こつ男のこり ちい得念

日ぐ 日さのこほりさす ちくもつと

ます ちかひのりけ ちかひのり

○照射 ^{十一} ちい ちい群 ちい ちい分け ちい

晴家 七月 雨 ちい ちい ちい ちい

^十 ちい ちい ちい ちい ちい ちい

^天 ちい ちい ちい ちい ちい ちい

○ちい ちい ちい ちい ちい ちい

族のちい ちい ちい ちい ちい ちい

ちい ちい ちい ちい ちい ちい

一 ちい ちい ちい ちい ちい ちい

ちい ちい ちい ちい ちい ちい

○ ちい ちい ちい ちい ちい ちい

ちい ちい ちい ちい ちい ちい

まゝの浦 ちのりま 螢火乱流 秋已近

車入らり 難波まらん 舟の浦 鹿草化成虫 命

難波江のまをますく 雲とみんちの舟のうら 命

かきまのわてふ ぼほ とうら 雲のり 一まはれ 命

かきまの星の 雲のり 命 信入海まの 命

かき火 故きり 故きま 命 命 命

うや天 蚊の網 命 命 命 命 命

命の夜 蚊の網 命 命 命 命 命

○子規のこゝと 蚊のこゝと 五月 夏あけの夏

情 情のこゝと 情のこゝと 情のこゝと 情のこゝと 情のこゝと

○五月 五月の夜宵月 鳴りすま夜の月

○子規 五月の夜宵月 鳴りすま夜の月

五月の夜宵月 鳴りすま夜の月

五月の夜宵月 鳴りすま夜の月

五月の夜宵月 鳴りすま夜の月

六月

一水宮 水宮の調 ○水宮の調

水宮の調 水宮の調 ○水宮の調

あつたまにわたりてうらやまの夜はつたまにうらやまの世

此月をよこしうらやまの世をよこしうらやまの世をよこし
まゆをけりてうらやまの世をよこし

あつたまをよこしうらやまの世をよこしうらやまの世をよこし

うきよふ 道々金まきふ しくめのまきまき

○夕まの露 吐きつ 羨る 草のまきまきも 雲

鯛の巻 涼凡 子舟人

くらしまふのふこまをまぬかりしけふ 羨るまきまきのひ

一瓜 しく作リ 園の凡 せまら丸

○里人 勢のやわたり 狭く 園も 書目 静ぬ 庭心

まきまき 物のやわらぬ 瓜作と 奪りうく たり せまら丸 勢

一夕ま 夕まのまき 夕まの丸 夕まの涼 しくまの丸

くらしまふ 夕まを 三句 夕ま 勢ぬ 勢ぬ

なまらまき 袖 なまら 露 十市 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 中宿

なまらまき 月待て 雲 天のまき 小舎 勢ぬ 勢ぬ

日のまき 夕まを 涼しき 勢ぬ 勢ぬ

十市 夕まを 月し 夕まを 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 後れ

甲 西の西 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ

一 凡 葉 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ

夏の月 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ 勢ぬ

一 聖 ともいふ 去月は空のくもるの如く 又之

沖津嶋山 日の入山 又山嶺

一 聖 扇 多し扇 扇の音

白き扇 扇の音 扇の音

昔通景 庭入 古垣 相切山

秋夜

信房

八重葉 守りしうらぶしとて 藤の清のころとて

下品

暑日 暑さ風入く 暑さのそと 暑さの暑さ

鳴るすも 蚊の声 月夜 納蚊のしと

ひびきとさき 竜 砕心 心やと ともるころ

雨

冷やも 村毎 暮れをのころ さらさらと

早

納涼 又涼と 朝涼と 下涼と 涼川に

主涼じ なるこい 心涼き 友と

暮るふ なるこい 袖入 瓦 雲心 初

夕立 湯居の 袖月 柳陰 茂るふけ

森の道 橋上 川 渡 竹 杖 明と

代の床 夕の川 夕の川

風とて 夕の川 夕の川 夕の川

夕の川 夕の川 夕の川 夕の川

夕の川 夕の川 夕の川 夕の川

秋道 夕の川 夕の川 夕の川

八凡 冬よりすう箱美 結一蟬のまがはし
よく秋のふ人のせうろ ちりあしと

善りか友野の為細尾の替もえあうり
平六 四枝 名越候 あり青月の女きこる候 又血

梅 女きこし、候すり わるい南すし
名越の候と六月末人こと此より力のききと
ゆはつと川あふるすき ころころと

○神の候と ちりあし 河内 虫 あり底月 川出の道
春一の心 夢もあはれ ちりあし

七月

が青月の名盤の候すり人かををの今うせき
がううとくまの河波麻の女きこる人か

七月 ちりあし ちりあし ちりあし 月 夢か
ちりあし 日とあかすけ

一享候 秋のきく、木も秋 初秋 木も秋 木も秋

朝来 蜩 ちりあし 声 涼しき凡 ちりあし 柳

花折 落つ柳のきく ちりあし ちりあし 角玉 暑か

知凡 ちりあし ちりあし ちりあし

あむやうふ秋深し 竹影に

月み袖 飛雲 雲の衣の夕の光の君の如

竹まうけ 川辺の道橋の上を雲の下に

秋の調の笛の音 凡そうへ 袖の衣をうへ

あふむ 身又死 身あむむみまう

くく隈の月 輝きの袖の衣の夕の光

衣の影 夕の思ひ 雲の匂ひ 衣の夕の光

雲の影 夕の思ひ 雲の匂ひ 衣の夕の光

おれをやの秋風をうへ 夕の光をうへ 後成

秋むききききいとき 秋夜 秋の光 秋夜

夕の光 秋夜 秋の光 秋夜 秋の光

涼しき風 清河原 秋夜 秋の光 秋夜

秋の光 秋夜 秋の光 秋夜 秋の光

相 相の家 村の相の人 夕の光 秋夜

秋の光 秋夜 秋の光 秋夜 秋の光

詩人もあふ 秋夜 秋の光 秋夜

秋の夜をふりてはさうらうの月を人恋とるはさき

秋の夜 秋の夜 秋の夜 秋の夜 秋の夜

○秋の夜 秋の夜 秋の夜 秋の夜 秋の夜

川邊わくするはさき

扇置 玉扇 扇の玉の捨玉扇

珠の玉 珠の玉 珠の玉 珠の玉 珠の玉

うきうきの袖 袖の玉 袖の玉 袖の玉 袖の玉

玉糸 玉糸 玉糸 玉糸 玉糸

秋の夜をふりてはさうらうの月を人恋とるはさき

古寺の秋月の悲 灯の玉の玉の玉の玉

秋の夜をふりてはさうらうの月を人恋とるはさき

一葉 朝をふりてはさうらうの月を人恋とるはさき

消るはさきをふりてはさうらうの月を人恋とるはさき

秋の夜をふりてはさうらうの月を人恋とるはさき

秋の夜をふりてはさうらうの月を人恋とるはさき

○雨くはさき 秋の夜 秋の夜 秋の夜 秋の夜

赤いまき 茨折 出入音夜野

杖凡たゆり さひくま村

神物を 六つにえんふ杖のあむる杖

杖のこゝま村母をくま夜心出の須呂をー杖

細神の草の房をわらねもさる杖をわらねり

一青 朝青 夕青 為青 杖青 川青 赤青

八さ青 青之太ふく青 青ゆふく青

青のまき 青のまき 青のまき 青のまき

中者 青がれ 青の海 青の下

○夕露 何れ月はくさ藤の音 岑山

白雲 檜原 紅の野 川 杖 杖のまき

行舟のまき 杖の杖 杖の杖 杖の杖

空谷川 阿武隈川 鴛 洞 雲山 堂 杖の杖

杖の杖 杖の杖 杖の杖 杖の杖 杖の杖

杖の杖 杖の杖 杖の杖 杖の杖 杖の杖

杖の杖 杖の杖 杖の杖 杖の杖 杖の杖

月 久き月 日次月 日之是 天麗月 夜渡月

五

一昔のふもふもふも真昔也ふもふも
ま昔ふもふもふもふもふもふも
ふもふもふもふもふもふも

神は殿のつとふもふもふもふも

野荒ふもふもふもふもふも

ふもふもふもふもふもふもふも

ふもふもふもふもふもふもふも

ふもふもふもふもふもふもふも

一六 秋夜は長村夜少夜も長少夜も

ふもふもふもふもふもふも

のふもふもふもふもふもふも

ふもふもふもふもふもふも

ふもふもふもふもふもふも

ふもふもふもふもふもふもふも

ふもふもふもふもふもふもふも

のふもふもふもふもふもふも

鳥居を 為の事と 為のい いたる鳥 居を

鳥居一 爲鳥か 爲鳥か その鳥 とも風は 止

●尾心 初尾花 尾心浪 尾花の袖 五心

の杖 尾花の 之の 穂を 作信助 山

鳥居 神鳥と 薄ハの 古記 杖の中 杖

作 七月二十日 奥の青 和とす 久家 岩根 古塚

田而 會 小倉里 山田人解

古語 古語 一箇の時 村を する人 あり 残る 杖

三 藤 長系 ちの 下 新 軒 出 人 新 新 人 凡

新の 声 新の 凡 新の 音 信 新の 々 々

藤の 新 新 吹 凡 候 新 新 の 上 上 上 上 上

藤の 友 々 々 青 藤 の 葉 々 々

藤 々 々 々 々 々 々 下 々 初 杖 々 々 々

葉 葉 々 々 人 新 是 の 杖 々 々 月

あつた 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖

杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖

の 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖

まよひのしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ
ゆと一皮のしるしをわらわりのあひまひ

女郎花

まよひ女郎花のしるしをわらわりのあひまひ

まよひ宿那のしるしをわらわりのあひまひ

武蔵守 山舞男

まよひのしるしをわらわりのあひまひ

まよひのしるしをわらわりのあひまひ

花

まよひのしるしをわらわりのあひまひ

まよひのしるしをわらわりのあひまひ

まよひのしるしをわらわりのあひまひ

奥平 陸奥 武蔵守 山舞男

まよひのしるしをわらわりのあひまひ

まよひのしるしをわらわりのあひまひ

まよひのしるしをわらわりのあひまひ

虫入るる麻は凡そ朝方少きは

くはら月

朝顔 ひと胡下 色は朝日麻より

秋日 日入りたる胡下 ちかちか朝日

のふれきまふ今朝の胡下

○ 秋の葉下 赤い色 赤い下庵 呂竹の末

赤い色の葉下 後 あつたふん

あつたふん あつたふん 赤い色の葉下 後 あつたふん

秋の葉下 赤い色 赤い下庵 呂竹の末

神 あつたふん 赤い色の葉下 後 あつたふん

二 稲 あつたふん 赤い色の葉下 後 あつたふん

くはら月 赤い色の葉下 後 あつたふん

の塚のの枝 月よき夜おとふと花

吹茅原 蝶しき油田面雨くく夜

まゝる 牙八珍方 多田くくは 高城の

びくまらに支輪まじうて城のくくはれ

子内 甲男入稻去 子内入不も子内くく

うくく 子内 子内川 袖 子内入不之 子内

つと 子内の子息 子内 柳 友 佐

はの星 藤の青 佐 子内くくはれ

小次乃月 稚者 布 虫 山 多 田 伏見の里

いのかくは 虫のくくは 虫のくくは 虫のくくは

出 付 松虫 給虫 虫のくくは 虫のくくは

今 けくは 虫のくくは 虫のくくは 虫のくくは

虫と けくは 虫のくくは 虫のくくは 虫のくくは

子 けくは 虫のくくは 虫のくくは 虫のくくは

及 月 の 夕 園 生 花 色 の 心 事 記 者

子 虫 子 虫 子 虫 子 虫 子 虫 子 虫 子 虫

松中 男山 茂山 冷泉 好休 小倉 原野
政之入の事と信まはるるゆゆはうま
わきまを分て女女うまに松実の事をたふ
下向の清若の原の事若くは女の事をたふ
麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻 麻
麻の初声 麻のまじり 小男麻と麻 古守
麻まじり麻 古守麻 朝比麻 麻のまじり
朝比麻 朝比麻 朝比麻 朝比麻 朝比麻

下向麻 古守麻 朝比麻 朝比麻 朝比麻

○心野 長原 森 真馬 原田 面 志 野 志

お系 志 志 此月 芳田 志 野 茂山 小倉山

わきま 志 志 志 高砂 志 志 生田 志 志

渡路 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

古 古 古 古 古 古 古 古 古 古

古 古 古 古 古 古 古 古 古 古

古 古 古 古 古 古 古 古 古 古

津路の舟の下流へ舟の漕ぎをまゝに浦凡にまゝ

日 舟の漕ぎをまゝに浦凡にまゝ

小倉の持 批をまゝに浦凡にまゝ

神の小倉へ舟小倉へ小倉持湯小倉へ

はくはの持湯 二入して暮して中をまゝに浦凡に

毛どろろをまゝにと尾をまゝに

まゝに浦凡に 露拂野 砂浜 豊越 豊越

花野 夕の月 藤原原 野の月 大井野

大 舟の漕ぎをまゝに浦凡にまゝに

八月 壬午 八月 八月 八月 八月 八月 八月

一箱系 箱系へ入るむけいふささ 箱系へ入るむけ

うらけらふ箱系へ入るむけいふささ 箱系へ入るむけ

山田小田の舟子田原の舟 田原の舟 田原の舟

くけ船 山田の舟 田子の舟 田子の舟

○山王床の舟 夕露 秋凡 舟の舟

舟をまゝに浦凡にまゝに 舟をまゝに浦凡にまゝに

八月

紅い夜のさびしう 夜手の露

山麻の青うろすは夜人の心 暮の露のさびしう

山も湯たの力とくは 山果ぬまの人の心

一思草 秋の草 うまうまの心は思ふぬま

○袖の露 月又入まけくはまの中秋月も思ふ

かきも音も来ぬも 尾むの心 珠のわり

弁一五郎 おのむし草 の心は人の心とて

いふ おのむし草 の心は人の心とて

一草 何の草 うまうま

ひらき草 木子 ○まの軒 じり

たま 思の付合 あたし おのむし草 の心

一芭蕉 芭蕉の歌 色直玉 ぬまの心

○秋凡 秋の心 うまうまの心

心 心 うまうまの心

心 心 うまうまの心

心 心 うまうまの心

門田の舟路枕 感 江葉 紅葉

衣襟 二日 山主人 真の地

竹の影 夕陽 誰かまはしきる 鳥

の。まの 休みの 由ま 夏ま 終ま 月ま 日

大正 月 日 終ま 終ま 終ま 終ま

一 終ま 終ま 終ま 終ま 終ま

只の 終ま 終ま 終ま 終ま 終ま

君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

曉の暁のつらきとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

それらのつらきとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

百舌鳥 三つとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

いふ枝の枝 五つとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

ぬきと野 八つとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

とくくく草 十一つとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

とくくく草 十四つとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

野のつらきとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

一長夜 十六つとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

〇初學上床 十九つとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

待よとくくく袖 二十二つとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

麻の声 千度とくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

わいぬとくくく尾のつらきとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

夜入中とくくく尾のつらきとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

夜入中とくくく尾のつらきとくくく君よりぬ夜 伏見の昇 猪と野

崩築 くはりの築 やめくつて

河を浪 派さく音川 水のは葉 下は生

田上川 名大河 あり

山川 草をさく 河の月 秋あり 冷き

九月 朔の夜 秋あり

一茶 心茶 きりり色 ちんちん

○松乃月 あさ延 霜夜 草垣 衣はじき

淋きく 真葛 もとよ 宿候 養生 夜寒

梨のすきよめ 甚の陶 床の下は野

きりり 心茶 きりり色 ちんちん

茶心 心茶 きりり色 ちんちん

夕ぐれ 心茶 きりり色 ちんちん

一夜 持 孫音 持や 麻衣 心茶 持 持

九月

わが糸掛 碓の比ら風音の 秘事の拙 山甲
 旅路のうき 永夜 縁住家 わさしん乃宿
 丁の声 又行月 旅人を待たぬを詠う
 の舎 伏見の甲 葛城の甲 わさしん乃宿
 昔地 雲のうら 暮るる金 名 十市ノ
 十 桜のまゝに終りしをさす川ノ甲 旅路
 さびしむをさす 暮夜 十市ノ 萬正時
 八月 九月 十月 萬正時 十市ノ 萬正時

わが糸掛 碓の比ら風音の 秘事の拙 山甲
 旅路のうき 永夜 縁住家 わさしん乃宿
 丁の声 又行月 旅人を待たぬを詠う
 の舎 伏見の甲 葛城の甲 わさしん乃宿
 昔地 雲のうら 暮るる金 名 十市ノ
 十 桜のまゝに終りしをさす川ノ甲 旅路
 さびしむをさす 暮夜 十市ノ 萬正時
 八月 九月 十月 萬正時 十市ノ 萬正時

秋の信ももはるの心はあはれしき
仙人の神自はまのあはれしき
上初はあはれしき霜のうきき
かききのうきき
一夜を秋をきき
○秋衣 衣の近き 袖も守袖 衣もあはれしき
月の下風 衣の下巻 紅葉の青もあはれしき
あはれしき

一 冷し 月冷し 月冷し 霜降し 袖もあはれしき

一 秋の光 衣の青 月の霜
霜降し 衣の青 月の霜
秋衣の青 月の霜
秋衣の青 月の霜

一 草の青 衣の青 月の霜
草の青 衣の青 月の霜
草の青 衣の青 月の霜
草の青 衣の青 月の霜

櫻をけりての天候をききしにけりしひの山にま

秋のまきもよきゆや初山山まきとねね清い人き

紅毛 藤野村のまきか秋のまきもよきまき

あまの 秋のまきもよきまきまきまきまきまき

山の錦 ちかちか 山まきまき 山まきまき

植原 松菊 霜 男麻 岩泊 燈酒

とよ山 林 車 道の道 行等 小岩山 大井河

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

停車吐毛 楓林曉

秋のまきまきまきまきまきまきまきまきまき

下りまきまきまきまきまきまきまきまきまき

伊東のまきまきまきまきまきまきまきまきまき

秋のまきまきまきまきまきまきまきまきまき

手三 藤野村のまきまきまきまきまきまきまきまき

燈酒 ちかちか 燈酒 ちかちか 燈酒 ちかちか

月の友 ちかちか 神天 持場 兼

琴 譜 あり存一 林間炊酒焼紅葉

露霜 ありあひむくも好むの 以向吟 月

紅葉 ありはるす菊 草の表枯 ありの虫の音

○契丸 あり霜 介山の夕 岑の天 山嶽

床の青 あり夕の山 越 淋 秋 果 止

○あり何故 麻 契丸 月 氣 芳 ありなる

山名 録 森 石 偏 小 軒 人 井 川

秋らしき石及びくふ時をいふるもさきかへりたり

明き名をきまらば月への秋はきまらば人

秋人のうらぐ枯 草をいふもさきかへり

○木霜 かきまきの青 秋凡 又ひ秋

わらわら男麻の床 候まのうらぐ 秋凡 又ひ秋

一推 まのうらぐ 推のうらぐ 秋凡 又ひ秋

推 各推 推の葉陰 行違の推

推の葉凡 ○秋凡 霜 直下 思ひき

山 山は 秋凡 霜 直下 思ひき

秋凡 霜 直下 思ひき

秋凡 霜 直下 思ひき

秋凡 霜 直下 思ひき

○山 山は 秋凡 霜 直下 思ひき

秋凡 霜 直下 思ひき

秋凡 霜 直下 思ひき

秋凡 霜 直下 思ひき

○秋凡 東山 山ノ 秋 初 多 後 多 多 多 多

時 有 霜 山 麓 の 園

一 畝 田 霜 の ぐ ち 田 以 田 等 火 田 の 霜 上

と 霜 州 多 多 霜 上 田 霜 上 下 下

○ 麻 の 青 多 多 次 下 次 下 下 下 下 下 下 下

秋 凡 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多

一 畝 田 霜 の ぐ ち 田 以 田 等 火 田 の 霜 上

○ 霜 上 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

傳 言 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多

多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多

多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多

十月

十月 少 多 多 多 月 霜 多 月 初 霜 月

一 畝 田 霜 の ぐ ち 田 以 田 等 火 田 の 霜 上

小 使 付 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多

多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多

多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多

浪の匂を 本意の匂 ○や 芳 春霜雪

月 穴 本括 葉の合 秋葉をさき出さる

屏の 小の 冬 意 冬 衣の袖の 波 流

本意の音 河音 蟬の声 時雨の音

神 月 時雨の 泉 あり 泉あり 泉あり 泉あり 泉あり

下 衣 衣の 衣の 衣の 衣の 衣の 衣の 衣の 衣の

衣の 衣の 衣の 衣の 衣の 衣の 衣の 衣の

神 月 月 月 月 月 月 月 月

初

秋 月 月 月 月 月 月 月 月

霜 初 初 初 初 初 初 初 初

霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜

霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜

霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜

霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜

霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜

霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜 霜

小春落葉 曉はくさるる霜 薄く木の子

朔日吹枯木 晴天雨月 照床の夏夜霜

夜をそと寝覚えくさるる霜 薄く木の子

高砂の尾上の障子も 暁はくさるる霜

大唐の嶺の上 障子の霜も 暁はくさるる霜

木葉の影 障子の霜も 暁はくさるる霜

一本葉 木葉の影 障子の霜も 暁はくさるる霜

木葉の影 障子の霜も 暁はくさるる霜

〇霜 上より 山八 霜森 川河の水 細代の霜

山路 又 霜森 山八 霜森 川河の水 細代の霜

〇霜 上より 山八 霜森 川河の水 細代の霜

〇霜 上より 山八 霜森 川河の水 細代の霜

仙人の宿 掛 霜森 山八 霜森 川河の水 細代の霜

二 枯野 草木 野山 霜森 山八 霜森 川河の水 細代の霜

〇霜 上より 山八 霜森 川河の水 細代の霜

〇霜 上より 山八 霜森 川河の水 細代の霜

出麻の音のまのぬけし 今も今ぬ草の戸
望まをうけし ままの心もまのぬけし
子も 浦も 涙も 風も 鳴りも 友樹
久も 小夜子鳥 何も 夕浪子鳥 久よ
ちも まあし ちも ちも ちも ちも
樹 本まにまのま 友のま じまのま
まのま 今無のま 河樹 ままのま
ちよりのま ままのま

八月月 霜夜 暖きま 井方小舟 舟舟
丁の色 井田鶴 井田鶴 本のとま 井わ
休井原 須の因 井田鶴 井田鶴
真砂 月ま 雨のま
まのま 井田鶴 井田鶴 井田鶴 井田鶴
まのま 井田鶴 井田鶴 井田鶴 井田鶴

入有と月かきく浦凡々伝まるとりて
 本井川外に伝はれわきておきれたる
 名ははらへんしつてみづのたゆみ
 伝ふ 何んかきくうもつてんを
 おののこむ 伝ふのとねの床 鷺鳥つとん
 鷺ののこ 伝ふはたき 鷺鳥のよまね 鷺の羽凡
 鷺ののこ 伝ふはたき 鷺鳥のよまね 鷺の羽凡
 霜夜かきくうもつてんを
 月

山石伝ふ 二毛の地 生田川 戸流 霜
 小の伝ふ 伝ふの伝ふ 伝ふの伝ふ 伝ふの伝ふ
 戸流 伝ふの伝ふ 伝ふの伝ふ 伝ふの伝ふ
 一鴨 わし鴨鴨も鴨の上も鴨の羽むむ鴨鴨の
 羽色鴨の伝ふの床 わるす鴨鴨の草鴨の
 歩の床鴨の伝ふのわらひ 伝ふの伝ふ
 入江の草 伝ふの伝ふ 伝ふの伝ふ
 若鴨の伝ふの伝ふの伝ふの伝ふの伝ふの伝ふ

本枯 ^九 山 峯のしじ 舟本枯をうす枯
 〇さし山 三月 霜魚骨を亀
 此のノ 呼も長年の夜 何故作すに人
^正 何あまをまじりてまゝとてあつてあつし 信雄
 炭竈 とみや畑 炭やき 炭焼の翁 炭賣
 炭車 炭積車 炭焼衣
 何あまを まるまゝ山 云々山中 をまゝ

大原山 小中く奥

大原山 小中く奥
 長少の 名をいままゝ炭を焼くも焼く 大原山 ^式
 係る ^土 細代 細代 細代 細代 細代 細代 細代
 細代人 細代ひいと 奥い ^土

○川浪 もろ所 氷 きき夜 浪の紅雲

川 雲月 宇治 田上川 此江の海

神青ららの病は ^と 奥うもも半のうす ^た ねん

十二月 月々々々 月々々々 月々々々 月々々々

月の名 月の名 月の名 月の名

夜舟の浪 夜舟の浪 夜舟の浪 夜舟の浪

十一月

右尺月

氷 薄少 朝少 上少 中少 下少

雪 薄少 朝少 上少 中少 下少

霜 薄少 朝少 上少 中少 下少

雪 薄少 朝少 上少 中少 下少

十月

十月 月々々々 月々々々 月々々々 月々々々

何 國 之 名 號 曰 曰 曰 曰

其 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

其妻 必欲令妻侍藥之 乃其

○致 一竹之 且其 抄其 卷之

其 乃 山路 抄其 卷之

○酒をきき 諸人 白髪の四うた声

神 未 砂 酒 物の音

年中

子孫かもの河凡ふおの神もまをりききん 支

少神みじ川に教ててをえすりくくしん 戸 家

年

一はくし せそく ちとん ちこの火くちん ちせ

○山積の麓 大原 ちとん 柴の戸 雷の中 徳の毒花

王

今夜 夜の食 徳の食 ちとん 金 徳を 徳を

○まじ 國 相の走 中の 徳 ちとん 徳

○のふいよ ちとん 徳を ちとん 徳を ちとん 徳を

十二月 去得月 初る月

一神 樂 付 燎 うさむ物 小夜神 未 神 夫 神

神 手 声 神 未 里 神 未 心 表 の か あ ら

燎 尾 燎 の 執 之 夜 の 燎 燎 と 神 未

△ 掃 ちとん ちとん ちとん ちとん ちとん ちとん

うた ちとん ちとん ちとん ちとん ちとん ちとん

○かろし ちとん ちとん 月 天津星 ちとん ちとん

ま吉 白ゆし 九まの庭 砂酒 川くの下

○燎 池のま 地をへけり 小庭 神不付と

女子 神のまも 燈火う 今夜の神まひきり 色師れ

くまの袖うの程とまのりぬるまのまも 白がり 後れ

痛まひしむく 枯る神まきき 雨ま 神のまぬ 世ま

燈火 燈火の 園の燈火 消 燈火 燈火の

うま 燈火の まき夜 霜夜 くら長 入友

まのト 燈 油のまきり して 此のト けり

春の眠 くらまの宿の物

山室 燈火の 燈火の 板の 風吹か くらく 歌事

くら 白まの 下 燈火の まきり くら くら

まの梅 くら 燈火 色本の物 くら くら くら

年の内 梅 くら 燈火 色野の物 くら くら くら

○まの日 春のくら 燈火の くら くら くら 南のま

春近きくら くら

梅のま くら くら くら くら くら くら くら くら くら

五
一年の春 冬より春云〇雪 冬より春

クも 春分より 春分日 春分日 春分日 春分日

ま

佛名 佛名 佛名 佛名 佛名

佛名

佛名 佛名 佛名 佛名 佛名

灯 古寺 燈のり 燈のり 燈のり 燈のり

のら 灯のり 燈のり 燈のり 燈のり

わ 佛のり 佛のり 佛のり 佛のり

ま

佛のり 佛のり 佛のり 佛のり

一荷前

佛のり 佛のり 佛のり 佛のり

佛のり 佛のり 佛のり 佛のり

一逃離

逃離の夜半 逃離の夜半 逃離の夜半

毎日六時 逃離の夜半 逃離の夜半

〇 逃離の夜 逃離の夜 逃離の夜

逃離の夜

逃離の夜 逃離の夜 逃離の夜

逃離の夜 逃離の夜 逃離の夜

逃離の夜 逃離の夜 逃離の夜

逃離の夜 逃離の夜 逃離の夜

○併一写すまげくむの月連ううたら
まゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり

○まゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり
まゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり
まゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり

○まゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり
まゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり
まゐりまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり

恋之部

一恋妹多し恋多し恋多し恋多し恋多し

○みそり人頼し妹とらふ又ふはとらふ人

候いふまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり

人をまゐりまゐりまゐりまゐりまゐり

○恋よき付口をぬぬぬい候まゐり都の方

遠き道捨一をばるる方候まゐりまゐり

いとよき恋よき候まゐりまゐりまゐりまゐり

恋

月夜下り ころろ下流 ヒメくしき はあて
秘りし御さる人 入交遊りし かなたにわをわと
又なまぬ心 心の紙重き人 かひききうき思ひ
恨油の涙 さうしうら いしうしう人 今も消し
猶添 くろきとまか 町ま月く男は付りし
七じし 月外にまより かりひらけり
若人 とらぬあぢの 侍像を君ありと こそ未
知ま 心の事いふるとは 思ひのまきま人

侍侍夜下侍侍 侍人侍像 とせ侍
侍き むねおとととぬ 妹侍時 侍围のうら
侍あり ○ 围の灯 とうたき 又ゆく侍
心 いらいと 夕詠 びく琴 峯月
塵拂 赤衣 袂衣 上垂 切人 入まら
直 まのまをぬ 八もりのま

一 雲の影をたもとて衣の袖にひかりを
照されぬを袖まはらうまの衣にひかりを
一 わらう笑はば三夜をうら 女を夢に
横たふらうつる月をいふまをいひけりま
心は酒の命わさされまをうらまを
まゆらあらしむ
おのころのまをまはれぬいひまをうらまをうらまを
まをうらまをうらまをうらまをうらまを
まをうらまをうらまをうらまをうらまを

一 下さえありわさきほひじとほひは
えりまきけり途の秋のまをうらまを
まをうらまをうらまをうらまを
一 ねむりたのまをうらまをうらまを
かふるたのみねりうらまをうらまを
口中ら待たぬえりまをうらまを
笑の末らむじりまをうらまを
佛かまをうらま

しつゝ此のふりておむとてふはしつゝとては

一別 別終ふの袖より別いそ別 中筋

あつゝぬくさる別

しる音 懐の古 涙 及 及 不 短 夜 請 張

しるま 月 冷 入 係 を 入 る 行 舟

袖 袖 扱 せ しま の 入 道 の つ ち

此 余 深 遠 入 ん 白 露 の き せ 今 八 咫 の 之 像

しるま 下 入 ち 入 舟 舟 入 舟 舟 舟 舟

しつゝとて入りて去 岩をまゐりて 河崎のふ

水 重 岩 重 を 眺 め け け け け け け け け け け

一 舟 入 舟 入 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

一 直名 くらみ くらみ くらみ くらみ くらみ

今まきよ ときよ ときよ ときよ ときよ

いりけき 中 くらみ くらみ くらみ くらみ

くらみ わらわら わらわら くらみ くらみ くらみ

今まきよ くらみ くらみ くらみ くらみ

くらみ くらみ くらみ くらみ くらみ

一長天 ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
夏つらら ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
首の骨 都の夏 人つらら 夏 ちかもつて ぼんぼり
夕の光 〇 ちかもつて 物 ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり
侍 ちかもつて 夜 ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
わ ちかもつて 夕の光 ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり
白と黒 ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり

目録
大 ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
秋のいさ ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
月 ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり
河 ちかもつて ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり ぼんぼり

千
うらもこりたなれぬ一葉あ

〇くもさあ とう別 旅の宿泊舟

野上へ里 三の江 雅波江 依事 廿四

川の波 浪の森を舟りくみなを舟のたし

主 一いともしり 妹しる道 妹しり行

〇ほろ中 行袖入 奉子もつり 舟りる門

きく 國の戸 三はの中

ふし 〇は 妹しる道 妹しり行

山 〇は 妹しる道 妹しり行

〇は 妹しる道 妹しり行

主 〇は 妹しる道 妹しり行

生きたとて人 暮 中の巻 糸田の巻

心まてんをばさるわらふひりなをりかきと
 源氏中河の宿にたえぬは小舟の車まをき
 て行はまをこ蟬かまむじとと暮とくをま
 正源氏入りまひまをこ又は値はな中定
 ありまひまひまはむしり 東流の宿切をま
 かはまの上の十れ感身まをりまをり
 研へ不付かまむし 牛而新 休まをり
 〇身 度二すのり人 誰小車 乱髪
 秋らへ會花の巻と ときま焼まをり

研はるが斗かむき大はてはく高き上の根

衣くの袖の洞まをりまをりけまをりまをり

と占方 ゆうまをりまをりまをりまをり

けまをりまをりまをり 定ある契 我の 待旅人

日は撰少有途 ちまをりまをり 伊の人の名

手物まをりまをりまをりまをりまをり

一物のまをりまをりまをりまをり 乱髪落宿

生と人 小舟の奥 行こぬ かのちまをり

野一宿難も、長夏の大指の心の方ほよき後

おのゝこゝろ 何れもいふは、人の指の爪を夜とくまきりて

主 正しるぢいしんしんは、のほろろ人 隔る中

待入いふけなき心 都人の心よき

水波 女郎が夜のはらひもの凡

おのゝこゝろ 言はせしるゝも、おのゝこゝろは、おのゝこゝろ

主 正しるぢいしんしんは、のほろろ人 隔る中

おのゝこゝろは、おのゝこゝろは、おのゝこゝろ

わがまゝのうらみはさすに酒吞人かよひに侍りて
侍るの雨月雲花凡さきこと人行舟は
わづき浪凡下波たぎ高き岩かたぎ女の乳
罪・まけき尹急たぎ経吉の海邊れたぎまよもの
たぎわがまゝのうらみはさすに酒吞人かよひに侍りて
一わづき浪凡下波たぎ高き岩かたぎ女の乳
侍るの雨月雲花凡さきこと人行舟は
わづき浪凡下波たぎ高き岩かたぎ女の乳
罪・まけき尹急たぎ経吉の海邊れたぎまよもの

わがまゝのうらみはさすに酒吞人かよひに侍りて
侍るの雨月雲花凡さきこと人行舟は
わづき浪凡下波たぎ高き岩かたぎ女の乳
罪・まけき尹急たぎ経吉の海邊れたぎまよもの
一わづき浪凡下波たぎ高き岩かたぎ女の乳
侍るの雨月雲花凡さきこと人行舟は
わづき浪凡下波たぎ高き岩かたぎ女の乳
罪・まけき尹急たぎ経吉の海邊れたぎまよもの
一わづき浪凡下波たぎ高き岩かたぎ女の乳
侍るの雨月雲花凡さきこと人行舟は
わづき浪凡下波たぎ高き岩かたぎ女の乳
罪・まけき尹急たぎ経吉の海邊れたぎまよもの

はの師 けい げん せ

平はるあかりのあつたを山尾上の津波をよめども案

一暮れを残りて別入浦尋人 女は終るも月

若身旅之人 因縁 今もこの心 玉子 雪

やまを衣 厚くた 友む とも情心

一ゆくりふせハ新 け下 波わらぬ 哭あ

しきり 又のせ 涙もあま じけま

きつりの恨 涙のみ

下 けい げん せ けい げん せ けい げん せ けい げん せ

あす 琴の青 待人もなき 夕 ともあ

一 けい げん せ けい げん せ けい げん せ けい げん せ

けい げん せ けい げん せ けい げん せ けい げん せ

一 通達 少今 友 舟 抽 共 関 守 跡 とも

けい げん せ けい げん せ けい げん せ けい げん せ

定路のりり 然る 瓜 木 運 へ 真 袋

けい げん せ けい げん せ けい げん せ けい げん せ

今もなほ此等の國の公に母ももつた人

王 ともあつてハ 名前のうち はくちう

女の名をいふはくちうは 女がむすぶはくちうは 女の名をいふはくちう

果 女の名をいふはくちうは 女がむすぶはくちうは 女の名をいふはくちう

わんまふ 腰のしり ころの船様

ぞいふ 船のしり ころの船様

ころのしり ころの船様

ころのしり ころの船様

ころのしり ころの船様

ころのしり ころの船様

ころのしり ころの船様

ころのしり ころの船様

生

ころのしり ころの船様

夏の下へ 鞠の巻 おひさまき

ふりまきもなまききくをれも若狭はきくいのち
足相本走つ 世のあこち 信信今鞠の目一討
ひひひふふり世のこえとア又物多むこひ
と女らんもてい中人中まのむは

今更の色は白く山宿ももむ枝はやうけしませ

むはまきもなまききくをれも若狭はきくいのち

下のまき 下坂 雜而 取らん まき

物 取らん まき 雜而 取らん まき

連懐 釋教

一世捨が 世代有く 世代はよ 世捨人 世を

らくく 世代陀人の山住 君くき 別り中

法入袖 柴入戸 室の心 小野の奥 伝は

の奥 吉野川

世のあこち 世を捨てよりのおひさまき まき

宵まき まき 世のあこち まき 入らん まき

しき朱を在はのひまき まき 在代有きまき まき けく まき けく まき のく まき けく まき けく まき

昔よりよりの春の夜の雨に涙をまきつゝ
五月侍の麻橋のまはりの貴人の御心をよるま
甲 かの御心よきまにほはるるまはるるま
乙 乙の御心よきまにほはるるまはるるま
丙 丙の御心よきまにほはるるまはるるま
丁 丁の御心よきまにほはるるまはるるま
戊 戊の御心よきまにほはるるまはるるま
己 己の御心よきまにほはるるまはるるま
庚 庚の御心よきまにほはるるまはるるま
辛 辛の御心よきまにほはるるまはるるま
壬 壬の御心よきまにほはるるまはるるま
癸 癸の御心よきまにほはるるまはるるま

一老付 齢をむす 老人令 老母 心之病

むすまはるるまにほはるるまはるるま

齢よけて けりまにほはるるまはるるま

○福笑やれは 引籠る宿 理合り者

夜ふきつるに月 思ひあはれはるるま

淋しき更とま 讀み 字 松花各

とおごりやして

古 志のよるまにほはるるまはるるま

探むらうむびるもむらうのふりあつたまうおま
 木の根越りうまはひま今手とまの松山 蘇
 一 屋家ハ。淋し心 忠より人 此國をり
 とくも 月じとぬい いらあむ 母うーの心
 探物の奥 柴のた旬 里の湖 狩場の伏猪
 君の世をぬ 世に捨家 頼かき月
 心本より 匠かすまう 守まうと 月のおきり人 基座
 山あはらうくも け人まをりうとくうらん 匠

正母あ 候かぬ 袖各のう 松のー庵 捨一世
 人多くをびの教をくをまの 袂よりくきんこま 蘇
 一 黒雲はの袖ハ。君うま 忍 忠人 骨法師
 寺 宝のう 友は 師人の服のーく 蘇
 世といふ人 忍ととく 法とく 一あつた
 探つじ 忍ととく 谷のう じと人
 家とびる 小あつ奥 乃く 具 吉野山 山家名

小舟に渡りて入るも、女三の夫人の姉君と申す
と云ふおぼしめて甲十九日入りの小住のふく
はまはさきまじり

合ふに事なきにまじりて、おぼしめて袖も、ちやま

し、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、
おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、おぼしめて、

百もよもや 秋人と逢ふ 霜よしのも経ぬ

かざりてしるる人の車よしののちのちのち

おのほくの月母相害のまきのま

たつたあひまのまのまのまのまのまのま

古塚。むら 出のち 生田 を母のち

甘入袖 まほき道 母開 深草

舟更の津舟の津の津の津の津の津の津

草入原。古塚 ねのねね 出のち

荒小田 明むら

よきよきやうて消さるるまのまのまのま

も入腕月夜の内ちのちのちのちのちのち

まき人のくまのまのまのまのまのまのま

おのち月夜と袖とぬまのま

武部や。草の原付へてまのまのまのまのま

初まのまのまのまのまのまのまのまのま

まのちのまのまのまのまのまのまのま

ねうとろの巻 軒の松流る 山のけしき

本のかげ下まねきてさへぬはまの夜をさるるま
も八段仕太右の四より拍木をさるるま
まづいさなるやまらるるまよまの夜をさるるま
よさうふらまのまをさるるまのまのまのまのま

三 ころまき今下ら涙の流るはの世のま 朝更

のまのまのま 物のまのま 根のまのま ころまは

朝月とるまのまのまのまのまのまのまのまのま

のまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

朝をさるるまのまのまのまのまのまのまのま

のまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

春とのまのまのまのまのまのまのまのまのま

のまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

一 親のまのまのまのまのまのまのまのまのま

に佛 宇治の舎り とも明石の神とる

あつるまのまのまのまのまのまのまのまのま

斤思山

昔も今も同じく
 も明石の人のまこと
 都へのはこみす
 ありまのつら
 ちか
 ちか
 今もまた

子とちよハ。霜色の路の戸

捨あふ世むと人契
 法書玉人 月夜浦
 今もまた

今もまた
 今もまた

多ふふみ致されしふまふふふ

夜越の莊子 呼ぶ電中

一法 松うりつハ。捨一世平系 武蔵の美

一法 一屋家古塚 中る付

一法 寺古寺 遠山寺 藤寺 寺入り入

一法 寺古寺 寺入り入 寺入り入

一法 寺古寺 寺入り入 寺入り入

一法 行の志 結入り入 寺入り入

軒の丸 ちの上 庵櫻々 枝具 灯

一法 寺古寺 寺入り入 寺入り入

法の師 法のことわり 法の師

法の師 法のむじろ 法の師

墨田の油 墨田の油 墨田の油

鐘の音 二月の別 晩起 権揃 括むる

新なる 松野 用の程 志賀の浦浪

いふ海女の所より夕方の宿をとりたる妻
法師の家をそり有のやとむむすりきりて
かふとの笑をえんよまてるすすきりて
主 ありりハ世と捨人行人す一夜の心は師
主 妻をよむじよりの星をのりたりて
主 ありりハ世と捨人行人す一夜の心は師
主 ありりハ世と捨人行人す一夜の心は師
主 ありりハ世と捨人行人す一夜の心は師
主 ありりハ世と捨人行人す一夜の心は師
主 ありりハ世と捨人行人す一夜の心は師

主

一 夜に 暁の光をみたり。行 鐘の音くまひ

神の古 伯麻 妙縁 高野山

一 文書 巻二。 巻八 戸 法り川 じと 同業

天 廣く本うけり山 宇 神の かくまひ

一 なる世に かくまひ。 佛の 心を ともす

一 是は 佛の 心 家と 聖起 春入る 是

春の 心 人 こと かくまひ かくまひ かくまひ

かくまひ 春の 心 かくまひ かくまひ かくまひ

神代 娘之部

神

一 神 神代 神代 神代 神代 神代 神代

神の 神代 神代 神代 神代 神代 神代

一 文書 社 寺 居 朱の 酒 かくまひ かくまひ

一 縁 ぬさ 糸 糸 白 中 かくまひ かくまひ

一 縁 かくまひ 神 三輪 紫 大 春 日 日 吉

一 文 かくまひ 文 路 官 右 文 相 かくまひ かくまひ

一 文 かくまひ 官 所 〇 琴 入 音 四 〇 縁 神 かくまひ

一 文 かくまひ 灯 扱 かくまひ かくまひ かくまひ

林

子木神 高圓吉野春日太京小臨山出科

ら系取 宗作 多羽 兼事まつ宿 じつらのまのこま

りりてー天照神のまねらえりうとわくら君らん 目信

と様とくりわむじのゆわいふ世も秀根のまね

七六朱在院の四うく候氏もりうりゆり

まうふい野曲のゆめり

い山神らのまのりりてよはは初天のふんじり行根

一法神やーろの神垣胡清のゆりしあ

杖杖持柄神 への介 なる 清人鋪

神ふふ不律しと 楯折 布取日吉

一踏舞 わざのむゆ 井垣神垣 神人むゆ

の梅 音のく 白ゆり社務 三輪 住吉加茂

白ゆり 付かき かつら白ゆり 白ゆり

ゆりゆり 麻たこのさ 麻さ 麻の流丸太在

○社 神垣の林 杖の宮 異竹 林まの若

ふりひきと居るぬこころはのりぬ後

神 国守を人ともも 紅葉松と油

伊予の浜松を凡そは岐のゆかりのなまき

ふりひき何れもくみ極くは神の長久松まき

太あさのりひきまきぬぬ風雲をさすをねり

も二藤の后入に方くありひきとあり

たかこるにまきまきまきとありひきとあり

しりひきまきまきとありひきとあり

ひきひきとありまきとありひきとあり

ひきひきとありまきとありひきとあり

一注連 とち繩 注連ひきひきとあり

ハまのきつ繩 注まかから 注連の心 注連

中注連とて 注まかから

○いあ糸 杖村の注 杖入る 女入る

黄ひきと小男の足も 神 かR

ひきまきまきとありひきとあり

ひきまきまきとありひきとあり

かきこくまふてくぬく山頂は山頂は山頂は
つれじまのころぬく山頂は山頂は山頂は

ゆきまきまきまきまきまき

一 祝子 （まじり） のうすりあじ清まら 車入細

神ふ 神 （まじり）

くさりまきまきまきまきまきまきまきまき

祝まきまきまきまきまきまきまきまきまき

一 ありまきまきまきまきまきまきまきまき

いものまきまきまきまきまきまきまきまき

一 かりく （まじり） まきまきまきまきまきまき

かりくまきまきまきまきまきまきまきまき

猿

一 猿 猿まきまきまきまきまきまきまきまき

猿まきまきまきまきまきまきまきまきまき

○ 猿まきまきまきまきまきまきまきまきまき

馬の猿 柳まきまきまきまきまきまきまきまき

會く系 如猿 米越 小野山 米越

丁の色月の下林 相坂 深川

おききもあふれをわらひけり 野にけしきもあふれ

ぞゆめ君のゆめをききしききききききききききき

北平勢物語 猿のいふこといふこといふこといふこと

Compendium of the History of the Japanese Empire

都をわらひもよきしきききききききききききききき

一都をわらひもよきしきききききききききききききき

東のいふこといふこといふこといふこといふこといふこと

ひのふた 雅波 齋賀 大 園 以 乃 大 師 人

小野の住家舟入王

けしきもあふれをわらひけり 野にけしきもあふれ

おききもあふれをわらひけり 野にけしきもあふれ

一都をわらひもよきしきききききききききききききき

行々し道 町敷 釣 舟 入 じ 里 の 下 火

つるき 移りの 移 道 色 衣 掛 音

舟作 枝 但 葉 色 宿 深 光 舟 船 見 並 道

一國 國の戸 國を 國のたゞき 國の依り 入向

國越り 國の 國守神 國の若く

し 遠きうら 古里 板村 旅人 駒 多の古 井上

人の夜あき 道 切り 柳 清のり 中 相攻 須

の浦 自洞 玉柄 本橋 清原 不破 冷麻

新人の秋 涼しく 如きり 國攻 なる 須の 浦 八行

相攻の國の 國守 出で 守じまや 依り 終き 色は 春

味の家 蜘蛛の 網 守り 守り 守り 守り 守り 守り

とりの 舟もき 経き 大河 只 國の こと あり あり あり あり

山 舟 渡り 舟 渡り 舟 渡り 舟 渡り 舟 渡り 舟 渡り

舟 浦 舟 沖 津 舟 夜舟 千舟 百舟 子舟

渡舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

漕舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

高 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 撲 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

い 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

浪凡の声 海流の潮をき 淡江の望
左近 砂浦まの月 此の馬は けりわ
志賀 いかに 浦まの月 浦まの月 浦まの月
八月 雨のま 浦凡 けりわ 反 けりわ
こころを待ひく 夜半鐘声 ぶき けりわ
一馬の紅髪いり 駒いり 駒いり 駒いり
けりわ 駒いり 駒いり 駒いり 駒いり
駒いり 駒いり 駒いり 駒いり 駒いり

老馬の馬 馬の上 舞のり 駒
し 越の国 越の国 越の国 越の国
名の山 越の国 越の国 越の国
おま 相坂 伏野の渡 東路
駒の国の馬 越の国 越の国 越の国
駒の国の馬 越の国 越の国 越の国
一 驛路 砂の雨 系柳 都と けりわ
役 一夜 暮日 けりわ けりわ けりわ

磯長三ふきの河と及一粟下ありては

及西の國の橋の北麻山よりくさなより之の家
孫柳まなまのたぬかふらむわしは

柳ま子柳 柳う野 葉柳 孫柳 根柳

松根柳 岩柳 篠柳 養柳 小夜柳 子柳

○岩根の家 柳月 柳のうらまへ 柳ま子山

松の下 花の根 まなま 柳 越後山

松の山 花まき 柳まき 國公 柳のけ

伏入 作夜の中 山 柳まき 柳まき

柳ま凡よ 柳まき 柳の毛 高き 柳まき

柳ま高きに 柳まき 柳まき 柳まき 柳まき

道法 柳まき 柳まき 柳まき 柳まき

明ま山 柳まき 柳まき 柳まき 柳まき

越ま子山路 付道 柳まき 柳まき 柳まき

市路 都路 山路 柳まき 柳まき 柳まき

冷麻路 柳まき 柳まき

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on aged, yellowed paper. A red horizontal line is drawn across the page, approximately one-third of the way down. The script is dense and difficult to decipher.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. A red horizontal line is drawn across the page, approximately one-third of the way down. The script is dense and difficult to decipher.

一 坂一坂 坂越て 坂の藤 九折 坂の
 ○ 凡木の袖小篠 体よまらり けきぎう 駒
 岩ヶ採 松 小葉 山の井 古寺のた 玉柳
 本曾 ぬり 虫の田 ぬり 石代
 尖のこ 二坂のた 里より けきぎう けきぎう けきぎう
 けきぎうの 田の ぬり ぬり ぬり ぬり ぬり

一 畑 山 畑 遠山 畑 畑の古畑 うみ 古畑 斤

山 畑 畑のやけ山 ○ 山 畑 畑傳心 畑のやけ山 畑

黙 本法 店入 畑 伏猪 細道 山根

又 畑の園の古畑のまより 首や 若菜 畑と 畑のやけ山 畑

古畑のやけ山 畑のやけ山 畑のやけ山 畑のやけ山 畑

一 材 畑の材 木の材 山の材 谷の材

畑の材 ○ 寺のや 畑のや 畑のや 畑のや 畑のや

畑のや 畑のや 畑のや 畑のや 畑のや 畑のや

水

凡木の乃 木骨沙 香城 小倉山

雲梯 遠く 峯 鮎 岡 大内 階の事

施合 袖 凡 有 じき 出 り 一 足 家

一 杣 杣人 杣方 杣ひく 杣山 杣川

○ 入山 松 杉 杉 杉 杉 杉 杉 杉 杉 杉

山川 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花

三輪山 田上山

下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

一 龍 砂 砂 砂 砂 砂 砂 砂 砂 砂

尾 砂 津 砂 砂 砂 砂 砂 砂 砂

砂 の り 上 下 砂 砂 砂 砂

○ 岩 根 森 入 砂 川 砂 入 上 上 上

松 法 材 入 の 池 森 森 杉 杉 杉 杉

古 寺 土 高 川 布 更 出 入 杉 山

音 月 川 土 高 消 雨 雨 雨 雨 雨 雨

鳴浜路崎 志加入河 住吉入浜

謀 沼まやうりく使いじんの浦上の真目未と野舟人 志

ふらのいふまゝのまゝとことかかしててり孫満とてお浦凡

浜 付崎河洲 崎 浜海 浜辺 浜とこ

狭 八 狭傳心 狭我 狭楸

鳴 入 十崎 百崎 沖津崎 崎山崎 振崎 崎津

崎 虎崎 崎心 崎津崎 川崎 崎乃崎 崎津崎

崎守 崎乃崎 崎津崎

崎干 崎沙干 崎河干 崎と干 崎干河

洲 崎編 洲崎 崎と干 洲川 川洲

離 離崎 崎今 崎津 離の沙也 崎の捨舟

浜 六真砂 松貝むら 崎崎 崎也入る

浜 上崎 崎松崎 崎守 崎入 崎津 崎と干 浪

舟 崎と干 浦崎 崎今 崎津 崎入 崎伊 崎津 崎

雄波 住吉の浦

志加入河の浜干日と志加入河の志加入河の志加入河

の泊舟 芦原 下 河 浪 難 波 浦 子 謝 入 海
 古 年 舟 紅 毛 子 久 島 河 津 口 秋 の 平 舟 人 貴 子
 又 其 の 國 の 津 の 浪 子 ち や 舟 入 舟 子 舟 子 舟 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子

浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子

浦 凡 浪 の 音 ね 陸 へ 舟 子 ち 舟 子 舟 子
 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子
 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子
 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子 舟 子

浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子

浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子
 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子 浪 子

浪行浪々流 又百七の浪 子まの浪
 子浪 白浪 浪の心 芦の心 夕浪 津浪
 川浪 やまの浪 ち浪 甚磯浪 井も子浪
 遠なる浪 沖津浪 浪入吉 池の浪 浪の羽をき
 浪のこころ 浪のたをき 浪のうら 打まの浪
 ちる 水 下の 何とう 何とう 水 浪の
 岩振る 岩すれ 水 浪の 水 浪の
 浪のこころ 浪のたをき 浪のうら 浪のうら

ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり
 ●みと ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり
 ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり
 みと ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり
 ●ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり
 ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり ちまのり

浪ハ○ミの夕浦津凡 海と注之浦

丁ウ杯昔の末御細代 移り入泊舟

白き尾ビロ子也る猶も花の浦池の浦

つらみのさしとさる自妙の浪も更之ほは終つた

今換 今しもとまきまぬ橋川津のしとまきまぬ

さうゆりあるさうゆり泳も入目とむく外津の浪

今換 今もさる川とむくさるさるゆりゆりゆり

はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

の車ハ 無量の非波江のしとまきまぬ

作し山津もさるさるさるさるさるさる

唯波もさるさるさるさるさるさるさる

力も波もさるさるさるさるさるさるさる

し波もさるさるさるさるさるさるさる

し波もさるさるさるさるさるさるさる

なすと唯波のさるさるさるさるさるさる

しまるさるさるさるさるさるさるさる

川津川嶋

洞 岩洞 洞のやうな洞 洞の洞

そのとまの洞 空しくいふの洞 ちまの洞

洞 洞の洞 洞の洞 洞の洞 洞の洞

高水舟行 松本

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟

古
 おろしとあつみあたはしき河に空しくそよぼよと流るる
 流とせきすまき初て代にふるあそくありし流
 主
 一昔は川が 浪岩をねくつる岩々
 岩の浪 波の叩花のまき 岩
 波の舟 柳 葉 雪 白川 波
 浪の月と灯のまきとてしる空の住りか
 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋
 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋

川橋 橋の上 橋柱の人のかよひ まる
 村の中道 表門のまき 表門のまき
 鳴ききり 深名の海 宇治川 表門
 おろしき山 舟 葉 雪 竹の真のまき 虫のまき
 橋のまき 橋のまき 橋のまき 橋のまき
 今 橋柱のまき 橋柱のまき 橋柱のまき
 橋のまき 橋のまき 橋のまき 橋のまき
 橋のまき 橋のまき 橋のまき 橋のまき

居

つゝ因入を平。○柳川より船限のり

青西の浪岩根鴨島より

一殿 平 二乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

一殿 平 二乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

一殿 平 二乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

○ 平 二乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

一殿 平 二乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

一殿 平 二乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

一棟 樓の上高柳の居 乃友 平 乃友 平

乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

乃友 平

乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

● 家 妹の家 乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平 乃友 平

あふあ くらやうきあ くらやうきあ

○宿ニ花の道行の景并 如の道か而らる

色の人く 家の抄 二のの舟月 梵 響主備

真木の戸 念詩 瑞居の袖 吉の友 くり抄

ととととと 藤生

^由 其わさへ今よりり 宿きも在り 藤生はあまら

一 ^三 宿 東を 芦を まを 屯を 凡のを 君を

うりる 柴を 塩を 杯を 小を 若人 焼を

ととととと くらやうきあ くらやうきあ

ゆあ伏を まきの板を まきの板を 古を 古を 古を

○東を 六 淋 二 雨 四の法 行くの 極人 三

物もさび さいりあ 神を 月 ぬを 二 六 八 九 十

ととととと くらやうきあ くらやうきあ

和人の まきの べり べり べり べり べり べり

千 川 とも 枝 とも 六 の ちのり 物 子 ば ば ば ば ば ば

物 とも 六 の ちのり 物 子 ば ば ば ば ば ば

鳥居のふもとに九十九の石段ありて上りては月夜に

あやう人物ぞと下りては下じまじはく 上りてはく 木根

一昔の金 付きん 茨のてん。浦の沙夫 とてとて

そとへは入射とてはく 楠葉寺 難波

難波今お米とてはく とてとて 一庵 とてとて

一庵 賦の庵 紫の庵 草の庵 山下の庵 谷の庵

紫の庵 紫の庵 杖の下の庵 下庵 甲の庵

しり とてとて 小田の庵 杖の庵

杖の庵 杖の庵 ちの庵 ちの庵 一庵

○甲申の道 是の里 紫の庵 杖の庵 山住

世と捨入 両中 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の

杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の

杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の

杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の

杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の

杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の

杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の

杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の

藤下ろ ありこのふ 寺馬のま

思ふまゝにものし小倉山わりの松しふまゝふきま

戸 甘麻 換入ノ 松ノ 石 山ああり

竹のあまノ 朝ノ 柴のノ 松ノ 草のノ

岡ノ 谷ノ 岩倉ノ 村ノ まがらひして

麻 葉ノ 鹿 好鹿 草ノ 麻 用ノ 麻

衣麻 かつる麻 麻うしじら ままく麻

戸 二 海島 葉葉 月々 袖 へい

すし袖 大 移 人 物 心 せ け

麻 背ノ 葉のあし 松ノ 松のまむらうをいふまゝ

戸 松立あり 松のノ 松のノ 松のノ

戸 市もれ門 世まのノ 門 せ

三珠む袖 柳 妹ノ 家 何れノ 宿 馬車

朝清の 田 専 ねらふノ 全ちを八ノ ち

あつ の又とせ柳のあし 宿とせ へい

あつ の又とせ柳のあし 宿とせ へい

一^{三九}松の心は故年の志をこぼし春の緑を白く

よめるお志は交りて意はこぼれしとて名も志

物志南志の多む月と侍雲いふ詩也

松の下處も心水の玉溜る流し朝日

花の名高株たかたけ 志梅水西雪封寒

露重窓お縁竹侶たより

一^上床ゆか 朝床床の上むらさき床

少床度くく床床のさう度く床

又床中より床のくさく移むと床

あの上むら物ぐら取伏猪袴維子

月海つり琴目まを松の声 綱代

又 山家のすま塚の下まてみとまたりとまてみとれむ土庫の文

一^甲里 山里 古中 古里 里のくむ 表里

甲えきま 一村入里 一甲野入里 里人

たむき里をへり 山家のま ぬまの住里

弁山の里この甲 山陰入里 山中の里

ひびく子 人を知る

○塩江の梅 長竹 柴の烟 又 狭い田

焼火 湖 松凡 木葉 鐘の音 朝市

水の音 青 道の垣 思へ 衣掛 古野

三輪 生田 春日 布衣

古 いづこにありける人をもりや 伏見の里にわき道は

夫 淀川の心 火の粉の粉 けしきを舟すし 里の心 露

耳 一匹 心 小 柴屋 袖の 世の 袖 竹わりの 世

一ま 松坂 入 佐竹 の 塩 昔 の 中 阻 と 凡 佐 孫

佐 竹 の 入 佐 竹 の 佐 多 世 佐 霜 小 佐

佐 竹 よ き 折 ま 佐 妹 の 塩 採 佐 竹 の 佐 根 入

佐 竹 の 佐 竹 の 佐 竹

○ 植 五 花 菊 の 色 佐 竹 の 佐 竹 権 馬 佐

長 竹 苗 佐 竹 の 佐 竹 家 居 佐 竹 の 佐 竹

佐 竹 の 佐 竹 の 色 佐 竹 の 佐 竹 神 の 佐 竹 蝶

新 佐 竹 の 佐 竹 の 佐 竹 の 佐 竹 の 佐 竹 の 佐 竹 の 佐 竹

かきくろく色りくは若竹と秋ふすくもりやん人葎

夫あらまき屋一世の流きまをましましむの位ふま

初六 くまもき おまういしめやうもまもおとまきおま 信実

一着 平三 お着ともを糸いよ糸 灼屋のむら古着

灼屋のすきうり 灼屋の世八 灼屋の袖口

まくとんもせのふり花名忘 奥廊き園

焼く月 声すし 鞠の湯 琴入音 元焼

まのしらけの柳 小車 夜の朝まも晴 元

車の内しらけり 香炉峯 雲梯屋前

伊勢 伊勢 ちんちんまきとまきまき屋むかんとく入るまをきき まきま

年とくまきまきいふいふすてれをきりられて まきま 後

一着 付砌 ぬの白庭とをむ入庭 ぶあ庭 平四 杖又き

一着車 ぬの おしらけ 玉の砌 糸の庭

砌のすく菊の庭も入庭の花紅葉松柳

菊花宿色 池う 真砂 鞠と武蔵胡蝶

寺初名 家霜 九重 陽居の袖 虫入音

植

杉古
 在のちふらつて出つてとていぬくりと人々もく人
 又美入庭のまんまをまてむまけりつてあふかかたを
 五月雨のまじりまをみぬれ庭をこの敷まじりて
 一介面 二まのやめ 卯酉の巻
 ○砌 花のしり びり うちら 宿 出入色
 秋 為 梅 折 竹
 山門憚りもま秋して卯酉相の上まのて 定家
 月雨いさ水もまをりまのち直人ばはる
 まぬ

植物 生類

一 松 松原村松 ぬ松 姥松 松の村立 一松
 山松 うちま松 岩根の松 松のくし根 松の下ま
 松のま 松のあま松 松のま 松の洞 松の松
 松のま松 松の子年 二葉の松 浦松 松の鈴
 ○松ま 松まみ 松ま 松ま 松ま 松ま 松ま
 松ま 松まの松ま 鐘古寺 松ま 古塚
 山類 居所 小倉山 住吉 高砂 唐松 松
 月合かり

浦之小山 武隈

^古浦之小山の松はまきまきも扇の凡そこれ 枇杷堂

凡そみくらのみは浦之より信長松公交

^古松はみくらのみは浦之より信長松公交

松はみくらのみは浦之より信長松公交

松はみくらのみは浦之より信長松公交

松はみくらのみは浦之より信長松公交

松はみくらのみは浦之より信長松公交

○河島 夜山 松神 吐 孝 義 公 名 志 記

園崎 杉 植 松 原 三 輪 天 乃 若 久 山 相 取

布衣 泊 瀬 横 川 山 田 原 足 柳

松原 小 末 の 心 志 長 風 松 園 の 松 植 官 心

き 瓜 松 原 小 末 の 心 志 長 風 松 園 の 松 植 官 心

松原 小 末 の 心 志 長 風 松 園 の 松 植 官 心

松原 小 末 の 心 志 長 風 松 園 の 松 植 官 心

松原 小 末 の 心 志 長 風 松 園 の 松 植 官 心



風霜四雨草川 赫旬月く柴人

片岡生田三筆山いんを

とんま

太わき狐毒の下草むらまの駒もすまひく

穴のまは錦と織くくは田の森神を信明

一草小草村まふふ草一まふふハ草

一草草のや生まふふ木の下草一樹ま

谷のけの草岸けの家草の原草かくれ

草枯田まわらま草村芝草一馬草

まふまふまふまふの作 卯酉田けけ

赤まふまふの曲 古松園

春日かきまふまふまふまふのくけ下君と

夜更ハまふまふまふまふのまふまふ

まふまふまふまふの上る地まふの下まふ

まふまふまふまふまふまふまふまふ

山石根まふまふ古寺のり木古松

花の朽木まふまふいんけり 各の戸古家

心の子 比の及 梅の夜より 産婦の心

夜とまゝとまゝたうも 山にまゝの産婦の心 産婦の心

果の心 心の子 梅の夜より 産婦の心 産婦の心

日影の心 心の子 梅の夜より 産婦の心 産婦の心

心の子 心の子 梅の夜より 産婦の心 産婦の心

一層 仲津原をいれをさき原わまのり

ほと原く成 五原のゆく 仲の原肩 原川舟

原のゆく油 原のよると原のむま

○浦邊のゆく 原真砂 他のも

柳陰 結 草のや みるさ

みさの原の原のゆくわまの原原をゆくゆくゆく

ひさのゆく原のゆく原のゆくゆくゆくゆくゆく

草 わらわら 草の原 草の原

草 草の原 草の原 草の原

草 草の原 草の原 草の原

○入の原のゆく 草の原のゆく

草の原のゆく 草の原のゆく

草の原のゆく 草の原のゆく

草の原のゆく 草の原のゆく

草の原のゆく 草の原のゆく

草の原のゆく 草の原のゆく

たふらふ門田のふかしもまき其のぬちも松風之經宿

三 蓬 いづれも草なるものぞいづれも松

蓬の色 まきつゝいづれも蓬

まきふ ハ松住 松風ノ 松風ノ 松風ノ

松風のささき蓬 夜掃 せらむ住 蓬の梅 松風

むすのむ 松拂 道親の名残 望月 月付ふ

蓬田の松 古文 松風ノ 松風ノ 松風ノ

松風ノ 松風ノ 松風ノ 松風ノ 松風ノ

月風をまきふりか宿の蓬も松は松風ノ 下所

みても松とともなる松とともなる松とともなる

松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの

松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの

松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの

松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの

松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの

松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの松風ノの

不
なまはるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
後ねれ
まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
馬房

申物
まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
大業平のまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
不

まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり

まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
馬房

まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
馬房

まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
馬房

一
浅茅 のまじきる 浅茅 のまじきる 浅茅 のまじきる

わさくらさく 浅茅行る人 里山の浅茅

○まじきる里 麻 古徳 鶴川へ古塚 稲妻

赤霜 初 出の音 甲子 小野 矢田野 什中

抄夜 初 量 苗の音 甲子 小野 矢田野 什中

まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
馬房

まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
馬房

まじきるまじきる宿内じまひ人もやねれなきけり
馬房

藤原といはしは其の石のふ葉をりし宿のがし路師れ
わらわの有りたるはわらわのりしつゝもや虫はる人家族
しりし家山 山族の根 小家のめり
たす 小田のり

藤原 藤原 藤原 小原 小藤 藤花

岩原の藤 玉藤の村 藤原 藤原

○岩のけ 伏の床 中田 山原の藤 杉人

藤原のり 藤原のり 藤原のり 藤原のり

藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

二村山 木曾路 箱根山

藤原のり 藤原のり 藤原のり 藤原のり 藤原のり

評 川竹 長竹 村竹 谷の長竹 小竹
しらしの竹 竹の根根 竹の根さー 竹の枝
竹の山 竹の畑 竹の竹 竹の竹 竹の竹
竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹
○川辺 川竹 里 説 田 柳 木の畑 杉 竹
若の畑 雀 土 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
志 杉 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹

主

竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹
竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹
竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹

中殿 灯籠 赤い裏音

竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹
竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹

一 竹 やうり 竹 竹 竹 竹 竹 竹

○ 里 村 草 の 菴 竹 住 家 雀 竹 竹 竹 竹

竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹 竹の竹

小 院 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹

生

千 小田の畔 田中の畔 山田の畔

○霜 麻の川と云々 雀村薄 佐尻

未とく山田の畔の村為り人ありあつたるはれ五月

王 鷲 鳥 鷲のつらこ 鷲 鷲 鷲

鷲入声 鷲鳴く 打くふ鷲 鷲の村多 村多

○洲 鷲の松 入江 芦辺 沼川 津田 東 沈

柳 鷲 よきよ舟 林 池の汀 後の未とく

男作 未とく 入江の河原 万々入声

此 此のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ

大 大のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ

千 千のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ

一 一のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ

二 二のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ

三 三のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ

四 四のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ 鷲のつらこ

○ 芦辺 藤田 田面 松原 入江 鷲

傍 真砂池 八尋の飯浦 山原仙人

古き都 住吉 和み浦 入江の目

丁字の岡 例 傍 八松 河津のつら 田妻

と浦 遠く 遠く 山原のつら 山原

田原のつら 山原のつら 山原のつら 山原のつら

碧落無事 猶 鶴 志

才三才 羅法 冷の夜 鶴 憶子 亀中 鶴

才三才 羅法 冷の夜 鶴 憶子 亀中 鶴

一鶴 夜鶴 山鶴 夕鶴 胡鶴 村鶴 夜鶴

月夜鶴 やま鶴 山鶴 夕鶴 胡鶴 村鶴 夜鶴

狩場よ 六鶴の五八 鹿の 夕鶴 夕鶴 夕鶴

相こト 夕鶴 夕鶴 夕鶴 夕鶴 夕鶴

○ 神社 多井 表 此月 表 山寺 江の丸

身 行 市 地 松村 山原 山原

目 目 目 目 目 目 目 目 目 目

大の川 井 抗 大の川 井 抗

一鴨 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

こもりまゝの鴨 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志
鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志
又まじの麻まの志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志
ととまゝの志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

○山守 古畑 松 飯中 山平 合え

池の五本 村芝 貴 本係 山竹の林 古宮

山守の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

○入江 井原 真砂池 浪舟 舟の志

芦原の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志 鴨の志

あふきのまはく入の杜のくをのきぬ心くを後れ

一 鷗 鷗のう 仲の鷗 鷗のう 鷗のう 鷗のう

○ 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

芦 魚 汀の音 身はるの海

鷗のうあひの浦の沖津の舟のうあひの月あやけい

浪のうあひの浦の沖津の舟のうあひの月あやけい

一 鳥 鳥のう 鳥のう 鳥のう 鳥のう 鳥のう

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

草葉の巻とまう種とまうとまうとまうとまう

わくわく声と潮とくもあはれしつとせかり

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

一 鳥 鳥のう 鳥のう 鳥のう 鳥のう 鳥のう

もろのう青のう 鳥のう 鳥のう 鳥のう 鳥のう

くけのう くけのう 尾 ○ くけのう 尾 尾 尾 尾

小 家 宿 里 岡 丘 起 野 々 々 諸 族 々 々 々

相 坂 立 田 柳 神 垣 々 々 々 々 々 々 々 々 々

夜とて多分家からいへばいへばの夜は

おとし割はのびたきくはたきくをいへり

かきくのかきくはたきくをいへり

かきくのかきくはたきくをいへり

かきくのかきくはたきくをいへり

かきくのかきくはたきくをいへり

かきくのかきくはたきくをいへり

かきくのかきくはたきくをいへり

神多ききり 塚のそとよりいへり

神多ききり ○田中の峠 文姫 海一

景作 数京 山守 期表

人々をいへりいへりいへりいへりいへり

一龍 梢をいへりいへりいへりいへり

○松 もつとく 木をいへりいへりいへり

森 伏人の高園の山 飢龍 惟深 念ひ

まじりかきくはたきくをいへりいへり

一牛 野の牛 やまの牛 牛の子 小牛

牛の車 此の牛 あり牛 〇里入 甲入を

甲入のあま わげまき 田中を 耳波の

ゆきのゆ敷い 牛をいそぐ 程もたぐ ぬや

耳わふふをいそぐ 山門のすまじり かく

一猪 外ぬ ぬき かく かく ぬき ぬき

〇さや 谷の戸 藤り ぬき ぬき

養 古た もも山

製

くく山尾とつまき かく かく かく

手四 かく かく かく かく かく

一虎 虎つと 虎つと 山 虎つと 谷 虎つと

くく 虎の竹の林くく 山く 山く

法のくく 不捨くく かく かく

君のくく 虎つと かく かく かく

一盤 あり 盤 盤の住山 盤の住山

一盤 あり 盤 盤の住山 盤の住山

○奥山 昔は世に奥山と云ふ
古木のうへま 少くも

白木のうへま 少くも
白木のうへま 少くも

今日 奥山 昔は世に奥山と云ふ
今日 奥山 昔は世に奥山と云ふ

一 狐 きのうの外と 狐 古狐 新狐 小狐

狐 狐 狐 狐 狐 狐 狐 狐 狐 狐

○古狐 多村 古社 穴 養生宿

養生の巻 養生の巻 養生の巻 養生の巻

一 虎 虎 虎 虎 虎 虎 虎 虎 虎 虎

名 行 圃 草 村 草 村 草 村 草 村

得 鬼 守 株 得 鬼 守 株 得 鬼 守 株

一 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫

猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫

真 真 真 真 真 真 真 真 真 真

真 真 真 真 真 真 真 真 真 真

一 王 黙りける黙 黙のいふ かよもてい

○ 奥山 谷のた 此き藤原草村 登りた

古松 昔 山畑 岩根入る

一 藤蟹 けいふの末 さりあふ 宿 ちりあふ

けいふの末 地のうらまひ

○ 小波の軒 せ侍又 村竹 陳芽生

唐まのすむ けいふあむ けいふあむ 又あむ

侍合 又む 又む 又む

一 王 真 付 貝 けい 藤 住 真 ちり けい 真 鱗

● 貝 拾ふ 真 ちり 貝 ちり 貝 ちり 貝

○ ちり ちり 地 川 けい けい 玉 藤

ちのむ けい ちり けい 朝 目 ちり けい けい

○ けい けい けい ちり けい けい けい

住 けい けい けい けい けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい

けい けい けい けい けい けい けい けい

雜

金 匪二天の峰の貝をけと着けりふあは村と浦
いゆわくを松むちう人住のはの鬼子とくふ五員

雜部

十日 廿空天 朝日 胡附月夕日 夕習日

辰日 辰日 聖日 あり終る日 春の日 ちの日

辰の日をの目 太さの目 朝日 月くみ さまる日

天はと吉 あり成日 早る日 日の支 扱吉

●ちのうの目を 太を わるの目を ちの目

中をひあまを ちの目 ちの目 ちの目 ちの目

青きを冬を ちの目 ちの目 ちの目 遠方の目

まの目 冬の日 都の中 九まを けはを ちの目

●天 天也 天と下 天はを 天系 天とを 人の目

○日六 長困 ちの目 山 ちの目 ちの目

取るちの目 ちの目 ちの目

かきまのちの目 ちの目 月日 ちの目 ちの目 ちの目

いゆわく ちの目 ちの目 ちの目 ちの目 ちの目

夜半の川 去嗣 ちき渡海 浦乃舟舟舟

月よりさきえ 二寸ま袖 多のよ

○ゆつゝの 煙 多入 福くら 待月 人と侍

秋の川 去嗣 ちき渡海 浦乃舟舟舟

夜半の川 去嗣 ちき渡海 浦乃舟舟舟

月よりさきえ 二寸ま袖 多のよ

夜半の川 去嗣 ちき渡海 浦乃舟舟舟

月よりさきえ 二寸ま袖 多のよ

夜半の川 去嗣 ちき渡海 浦乃舟舟舟

月よりさきえ 二寸ま袖 多のよ

泊舟仍人怪入事 独寐を虎

虎 虎と云ふは其れをみづかきくをいふは虎の

二兩 ぬきつる よききるぬきぬのぬ 朔のぬ

ぬ夜 ぬきぬ 二月のぬ 忘所ぬぬきぬ

村ぬぬきぬぬきぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

○消て月とまきぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

鳴き凡 族の中宿子奴 落候 蛙 重

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

春より龍 候ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

春山ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

曉 杖 東まきまきしよとのむしめし

進子内談

和らむ谷の杉 瑞波の雪もよまきなも風も樹も
ま 暮ら門けさきくむらやいぬもつらぬまこれ人
ま

● 村敷ニ ねえ秋の晴しき 歳のもく 琴丸調

月のかすろ せのたより

大注 曹山如急雨 小注 切々如私語

いぢぢ人ふよりあつたけとほしとまら何敷のち

野古 野古 野古 野古 野古 野古 野古 野古 野古 野古

一 雲 けちくひまき 村さうぼくを 様を

ま 海 雲の浪 夕のき 夕のき 夕のき 夕のき

ま 雲 夕のき 夕のき 夕のき 夕のき 夕のき

○ 雨 ちみそれ 夕のき 夕のき 夕のき 夕のき

雨 ちみそれ 夕のき 夕のき 夕のき 夕のき

わ ちみそれ 夕のき 夕のき 夕のき 夕のき

角十 雲の城山 生助山 夕のき 夕のき 夕のき

保 ちみそれ 夕のき 夕のき 夕のき 夕のき

柴のたのむとみよくまはほむちんあふくろり肥
山は日たのむくちんあふくろり肥
山は日たのむくちんあふくろり肥

山は遠 雲埋 行客跡 川ありあふふ人のま

竹並 湘浦 雲疑 鼓瑟之蹤

八 一 烟 團のたふた 為烟 烽火のた 中への煙

煙をた くちんあ 煙のた 中への煙 中への煙

ねのた 川の煙 煙のた 煙のた

○ 煙のた 煙のた 煙のた 煙のた 煙のた

民の 煙のた 煙のた 煙のた 煙のた

抑 胸のた 煙のた 煙のた 煙のた

梅枝 煙のた 煙のた 煙のた 煙のた

山は遠 雲埋 行客跡 川ありあふふ人のま

信は多 煙のた 煙のた 煙のた 煙のた

凡まむくちんあ 煙のた 煙のた 煙のた

い中人あ 煙のた 煙のた 煙のた 煙のた

柳をた 煙のた 煙のた 煙のた 煙のた

小野の柳をよみて下りて柳をよみての柳をよみての柳

竹まきよまの柳をよみての柳をよみての柳をよみての柳

こまの相本をよみての柳をよみての柳をよみての柳

一風 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光 虎 甘光

日 天津彦彦火瓊瓊杵尊等之神

一鳴神 鳴神の青神

さるびくろ神 〇浮世

萩の古塚 須賀の浦

鳴神の青方とまき春丸の根

伊勢物語 葉平人

天のつとむらひ

鳴神

一虹 如川 如の多

〇雨のほ夕のを

わじの流 凡雅

更まらこころ

一天度

一鐘

か祭のも

○山屋の駒のふは入袖 年八若

採菓^採汲^汲の^の槍^槍新^新の^の飯^飯

法^法幸^幸運^運の^のう^うろ^ろま^ま新^新の^のり^り其^其葉^葉柄^柄多^多汲^汲汲^汲の^のこ^こら^らし^し行^行基^基

●瓜本 瓜本^{瓜本}の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

務^務解^解の^の苦^苦の^の本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

一^一瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

梅^梅の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

廿

市^市女^女甲^甲申^申の^の袖^袖 ます^{ます}ふ^ふ 山^山袋^袋 大^大城^城野^野

傳^傳心^心の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

一^一長^長 長^長の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

か^か六^六 六^六の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

一^一布^布 布^布の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

○川^川の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本の^の瓜^瓜本^本

廿二

廿一

江戸の卯む宇治玉川里河ゆり

本屋草
絹布とよひのきぬちりあどほくぬきまぬ玉川の里家

一洗衣 手三 ときわむらぬ〇雨ふる法 舞坪〇旅人

も侍 毛巻〇あわさず ますのきり

やとり住 いしぬの巻家

美のきぬぬちをさるるは時々のまふそりきり

七八甲と細糸こくくくくくくくくくくくくくくく

男のきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

一麻衣 手五 麻のき衣 本管乃麻ま七

〇賤のと 稲ま守袖 袴土 能人袖まき 野ち

あ ちりぬもすの麻まぬ袖ぬまきくくくくくくくくくく

一夜のち 手五 付たの袖 花衣 くのむゆの衣 一花衣

花とり衣 ちりぬもすの麻まぬ袖ぬまきくくくくく

花衣 ちりぬもすの麻まぬ袖ぬまきくくくくく

きりぬ衣 ちりぬもすの麻まぬ袖ぬまきくくくくく

ちりぬ衣 ちりぬもすの麻まぬ袖ぬまきくくくくく

濃くけ衣浦介衣 袖まき心まきけ衣 古衣
 少守衣捨衣 古衣袷恒守ま衣 炭やま衣
 燈中ま衣 ま遠乃衣 蔭衣 心のつり 衣付ま
 まき袷衣 まき袷衣 みのま衣 へび袷 袷衣
 ●花乃袖 みの枝 袖のまきまき袖 紫乃袖
 花乃袖 まきまきまきまきまきまきまきまき
 まぬの音まきまき まぬまきまき
 ○しんまきまきまきまきまきまきまきまきまき

凡得 重非 左と右袖 全ま衣 灼る屋まきまき
 ろゆまき人小車 袖の袷 焼物の白むまきまき
 ●まきまきまきまきまきまきまきまきまき
 下介 右の袖まきまきまきまきまきまきまき
 一燒火 小乃け 焚火まきまきまきまきまきまき
 まきまきまきまきまきまきまきまきまき
 胸の白まきまきまきまきまきまきまきまき
 凡恒守 浦舟まきまきまきまきまきまきまき

大なるものなるまじりりまつる物やうきしほしほ
テ 獲ハ 宜ニ 獲テ 是ノ 上ニ 以テ 福ヲ 乞フ 餘ヲ

大のなるものなるまじりりまつる物やうきしほしほ

一車 小車 力車 七車 かり車 車車 力車

五車 ふくむ 物入車 五車 七車 かり車 車車

六車 旋車 かり車 五車 七車 かり車

七車 かりき車 服者の 車とかりしよ 七十五

八車 木ぎみ本のむと如く其を五車と云つて上車

炭つて車 炭車 ○ 君より行 君より行

以 狩 在 物 七 宿 七 宿 七 宿 七 宿

花の下 郁 途 旋 路 子 日 乃 亦 七 柴 人 世 公 者

大原の道 併 家 中 乃 乃 以 調 物 七 七 七 七 七 七

七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七

七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七

七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七

七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七

卅九

誤入仙家陸の半見の忌厭日里終を七世孫
 一鞠ままの心の鞠の友の鞠のままび々鞠
 声くままるる鞠の友の鞠のままるる鞠の音
 ○三ままと小南花の下ま糸柳陰々言破幽
 尺はの付 又ま 砌の真砂 / 白河の宿 捕
 杖のふのままてま鞠のままるる鞠の友の鞠のままるる鞠の音
 是を拍子ままるる鞠の友の鞠のままるる鞠の音

四十

詩甲 作の詩うままるる唐のまま

○月花益の友の引琴 ままるる袖の鞠のまま

心まままの長 ままるる鞠の友の鞠のまま

四十一

一可 わの連乳ままるる決まるるままるるままるるまま

あのるるままるるあの友のままるる決まるるまま

ままるるの道 ままるるままるる舞波津の道

○都入系行入声 琴の音詠月賀

ままるるけの砂酒蟻の声まままるる中

七ツのぬ 四町のぬ 八ツのぬ 九ツのぬ 十ツのぬ

十一ツのぬ 十二ツのぬ 十三ツのぬ 十四ツのぬ 十五ツのぬ

十六ツのぬ 十七ツのぬ 十八ツのぬ 十九ツのぬ 二十ツのぬ

二十一ツのぬ 二十二ツのぬ 二十三ツのぬ 二十四ツのぬ 二十五ツのぬ

二十六ツのぬ 二十七ツのぬ 二十八ツのぬ 二十九ツのぬ 三十ツのぬ

三十一ツのぬ 三十二ツのぬ 三十三ツのぬ 三十四ツのぬ 三十五ツのぬ

三十六ツのぬ 三十七ツのぬ 三十八ツのぬ 三十九ツのぬ 四十ツのぬ

四十一ツのぬ 四十二ツのぬ 四十三ツのぬ 四十四ツのぬ 四十五ツのぬ

四十二

五ツのぬ 六ツのぬ 七ツのぬ 八ツのぬ 九ツのぬ

十ツのぬ 十一ツのぬ 十二ツのぬ 十三ツのぬ 十四ツのぬ

十五ツのぬ 十六ツのぬ 十七ツのぬ 十八ツのぬ 十九ツのぬ

二十ツのぬ 二十一ツのぬ 二十二ツのぬ 二十三ツのぬ 二十四ツのぬ

二十五ツのぬ 二十六ツのぬ 二十七ツのぬ 二十八ツのぬ 二十九ツのぬ

三十ツのぬ 三十一ツのぬ 三十二ツのぬ 三十三ツのぬ 三十四ツのぬ

三十五ツのぬ 三十六ツのぬ 三十七ツのぬ 三十八ツのぬ 三十九ツのぬ

四十ツのぬ 四十一ツのぬ 四十二ツのぬ 四十三ツのぬ 四十四ツのぬ

四十三

三十一 神一六 曲拍慎翁

一 琴の音は道に響くを以て

○ 琴の音は心通すを以て

○ 琴の音は山に響くを以て

○ 琴の音は春の如くを以て

○ 琴の音は人の如くを以て

○ 琴の音は流水の如くを以て

四十四

○ 琴の音は流水の如くを以て

夢さする心もわすれしをなほしにせぬく涙を垂

し玉昭君の心とあるまの船君琴の上よ

潯陽江頭、夜送客、自樂天し琴の

蓬生乃宿付り、入るは天の心ひすちまつひせと多むと

き多とる蓬生の宿に住むて琴とていふ

明月を付し源氏もさすくの町入る諸ものいひ

まほしとくくそくのまほしむすあてたさしむし

同因、諸花下、清幽、泉流、あはれ、離れ

四十五

蓬生乃宿付り、入るは天の心ひすちまつひせと多むと

一箇、以笛、魚竹、魚の声、そろろ、音、横笛

あつ、可名、魚の音、琴、笛、の心、ひあ、き、前、下、り

梅上、琴、あつ、ろ、人、い、く、の、下、落、梅、心

神玉、く、し、声、草、州、を、の、大、と、ま、ま、の、と、風、舟

化、国、い、つ、な、ふ、ま、人、を、の、く、り、く、り、ま、ふ

漢、井、生、の、宿、漢、笛、不、知、冊、客、と、ま、つ

舞、の、もの、を、向、け、は、け、の、は、む、ち、と、し、り、た、り、き、と、り、く、人、知

予人の初めをうらまはすより後の魚のそりては

海道の船にまじりて虫のあつらふと縁とてをり世にまじり

もなきあつらふよりまじりてるくこわりのたふさ

夜よの魚をとりてくくく声かかしくく

あつらふとまじりて伊を初洛より

牧童寒苗騎牛吹

二つ吹え早やせぬるのれをよむやうは

宇治山まてりふ家乃吹す

蟹のつらふ風をまじりてをりてをりて

見よ柏木の馬をうらまはすより後の魚のそりては

原野村凡吹苗處より

一系行 後流のま 系行の声 系行のそくわの音

あつらふ 〇世の賀月のかゝるの岸

みろ 砂の法のちとセヌくくく舟

舟人かきし舟の舟九まのり平れんち

主人下馬客在舟 茶酒飲飲血管弦

第廿絃声心掩椽 滝の氷明流不得

一都 付九重 古き如 古よ如 都の川 如

如 西よきふ如 如く如く 如く如く

●九重の内 九重の庭 九重のそと 九重の縁

宮の内 古き人 古き人 古き人 古き人

住 百友 せいの庭 との主人 夫の如 松田

まの川 みる川の川

のみや 柳 花の袖 花の袖

小車 舟の舟と 侍の舟 舟の舟

運きた友 流るる君 わるる石 同也 川流の舟

琴の音 有人 志賀 雅波 布衣 三ノ原

奈良 わすり 春雪

人の心 人の心 人の心 人の心 人の心

人の心 人の心 人の心 人の心 人の心

一君 大君 君の心 君の心 君の心

人の心 人の心 人の心 人の心 人の心

人の心 人の心 人の心 人の心 人の心

○治り世 礼も五世えしよと久 弊上民の尸

司召 縣召 花の賀月 月の笑 以調

又 憲の君よ 礼をしてて付

^物 其行のうみかききくは 君よを 礼するは 節を 節

一御事 ^{幸立} 君よ 以妻 以妻の車 少宮 以妻 絶引

○袖入 ちくく 花衣 子見の字人 狩ゆ 花威

紅葉 連るあ 神糸 ^{林のみりき} 殿作 十六

小倉 大井川 芥川 夫野 喉ぬ

本井川 女をさしりし法をう入 紅のなまな 本

小倉山 女をの望う心わく今てむの礼をさく ^{日身}

礼の山をさしりし法をう入 夫野 喉ぬ

礼の山をさしりし法をう入 夫野 喉ぬ

いさより 衣の被よりさつせり

一住 ^{幸立} 礼をさしりし法をう入 夫野 喉ぬ

○うさき入 礼をさしりし法をう入 夫野 喉ぬ

妻の礼をさしりし法をう入 夫野 喉ぬ

廿五

廿六

むのほのまて 衣の玉法花傳

森

衣衣のむのほのまてとてささげぬとていふ

一家の凡凡 一家の凡凡 此の凡凡 次家凡

○衣むのほ 揚句入 水入むめい せうり

衣のほのまて 衣の玉法花傳 琴の

音 笛の声

衣の凡凡とていふ所の森とていふ所の

